

今宿五郎江 10

—今宿五郎江遺跡第10次調査報告(2)—

2011

福岡市教育委員会

いま じゅく ご ろう え
今宿五郎江 10

- 今宿五郎江遺跡第10次調査報告(2) -



調査番号 0420
遺跡番号 IZG-10

2011

福岡市教育委員会

序

福岡市の西部に位置する今宿平野は、「伊都国」として中国の史書にその名を残す糸島平野の東を占め、歴史的にみても重要な位置にある地域です。ここではいま、大規模な土地区画整理事業が進行し、田園地帯は日々街へと姿を変えつつあります。福岡市では、工事等により現状での保存が不可能となった埋蔵文化財について、記録による保存を図ることとし、そのための発掘調査を行ってきました。本書は、この目的で伊都地区画整理事業地内の埋蔵文化財について実施した調査の報告書として刊行するものです。

本報告の刊行は、関係各位の多大なご理解とご協力の結果であるとをここに記し、心からのお礼を申し上げます。また、本書が今宿平野の歴史について、理解を深めるための資料として資するところがあれば幸いです。

平成23年3月18日

福岡市教育委員会
教育長 山田裕嗣



図1 今宿五郎江第10次調査地点（南から）

はじめに

- 1 本書は、2004（平成16）年から2005（平成17）年度にわたり、福岡市西区今宿町地内伊都土地区画整理事業地で福岡市教育委員会がおこなった、埋蔵文化財発掘調査の報告である。
- 2 報告する調査は、調査番号0420今宿五郎江遺跡第10次調査で、分割して報告するうちの第2である。本書では、溝427遺物出土状況及び出土木製品ならびに包含層及び谷部遺構出土木製品を報告する。
- 3 発掘調査は、文化財保護法57条の3（改正前）に基づく通知を受け、埋蔵文化財保存についての協議を行った結果、福岡市都市整備局伊都区画整理事務所の依頼により、記録保存を目的として、教育委員会埋蔵文化財課（当時）が実施したものである。作業は、関係各位のご理解とご協力のもと、円滑に遂行することができた。この場で深く感謝申し上げる。
- 4 発掘調査は、埋蔵文化財課（現埋蔵文化財第2課）杉山富雄が担当し、2区および3区の調査では阿部泰之の協力を得た。本書編集は、杉山がおこなった。今回報告の遺物実測は、編者が行ったほかに木下博文の協力を得た。掲載図作成は編者がおこなった。
- 5 出土資料および調査記録は、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵管理し、利用に供する予定である。

凡 例

- 1 位置の記録は、伊都土地区画整理事業に伴い設置された基準点（日本測地系）を利用し、その座標値で示した。
- 2 図中に用いる方位は国土座標の座標北であり、真北から $0^\circ\ 19'$ 西偏している。
- 3 遺物実測図について、木製品は縮尺4分の1を標準とし、そのほかの縮尺の場合は、棒尺により示すか、必要に応じて遺物番号に続けて記した。
- 4 報告中では、遺構・遺物に対し、調査中から整理の過程を通じて登録した通し番号で表記した。また、報告後、これを収蔵管理に際しての登録番号とする。このため、報告中の表記が煩雑となるが、調査から収蔵までの過程の情報を一貫して管理し、台帳・図・日誌等関係情報を極力参照、検証できるようなかたちで残してゆきたいとの意図からである。また、番号の種別を明示する必要のあるときは、遺構については区分の記号M、遺物については記号Rを付している。
- 5 調査に際して、位置の表示に座標系の格子を利用した。100m・100m・10m・2mを単位に格子を設定し、それぞれに付した番号を組み合わせて位置表示を用いている。【例 G26-0112は100m格子26中の10m格子01、その2m格子12。各数字の左は東基準線からの列数、右は南基準線からの段数、26は東から2列目の6段目の格子。図3参照】

本文目次

I 溝427遺物出土状況と出土木製品	1
1. 溝427遺物出土状況	1
(1) 今宿五郎江遺跡第10次調査	
出土遺物の構成	1
(2) 溝427 25層遺物出土状況 (図5)	1
(3) 溝427 16層遺物出土状況 (図6~13)	1
(4) 溝427 18層遺物出土状況 (図14~23)	1
(5) 溝427 19層遺物出土状況 (図24)	3
(6) 溝427 22層遺物出土状況 (図25~33)	3
2. 溝427出土木製品	4
(1) 溝427土木製品 (図34~40、表1~4)	4
(2) 溝427~18層出土木製品 (図34~40、表1~4)	4
(3) 溝427~19層出土木製品 (図41、表4)	15
(4) 溝427~22層出土木製品 (図42~50、表5~8)	15
(5) 溝427中検出遺構出土木製品 (図53~62、表8~11)	35
遺構1054 (図51、表8)	35
遺構1061 (図52~53、表8)	36
遺構1062 (図54~55、表9)	36
遺構1070 (図56~57、表10)	38
遺構1071 (図58~62、表10~11)	38
II 包含層及び谷部遺構出土木製品	42
1. 包含層出土木製品	42
5層出土木製品 (図63、表11~12)	42
6層~11層出土木製品 (図63~64、表12~13)	43
12層出土木製品 (図65~66、表13~14)	44
13層出土木製品 (図65~66、表14)	47
2. 谷部遺構出土木製品	48
溝1012出土木製品 (図68、表15)	48
流路1044出土木製品 (図55、表9)	48
流路1089出土木製品 (図68、表15)	48
凹地1113出土木製品 (図49、表15)	49
矢板列 1093・矢板列1095 (図69、表15~16)	49
III まとめ	67

図目次

図1 今宿五郎江第10次調査作業風景/遠景	iv
図2 今宿五郎江遺跡調査区地点位置図 (1:2000)	2
図3 今宿五郎江遺跡第10次調査全体遺構図 (1:500)	3
図4 今宿五郎江遺跡第10次調査地点土層模式図	4
図5 溝427遺物出土状況(25層 G26-99区 北から)	5
図6 溝427遺物出土状況(16層 G35-10区 北から)	5
図7 溝427遺物出土状況(16層 G26-01区 北から)	5
図8 溝427遺物出土状況(16層 G26-02区 北から)	6
図9 溝427遺物出土状況(16層 G26-03区 北から)	6
図10 溝427遺物出土状況(16層 G26-04区 北から)	6
図11 溝427遺物出土状況(16層 G26-05区 北から)	7
図12 溝427遺物出土状況(16層 G26-97区 北から)	7
図13 溝427遺物出土状況(16層 G26-98区 北から)	7
図14 溝427遺物出土状況(18層 G35-10区 南から)	8
図15 溝427遺物出土状況(18層 G26-01区 北から)	8
図16 溝427遺物出土状況(18層 G26-02区 南から)	9
図17 溝427遺物出土状況(18層 G26-03区 北から)	9
図18 溝427遺物出土状況(18層 G26-05区 北から)	9
図19 溝427遺物出土状況(18層 G26-06区 北から)	10
図20 溝427遺物出土状況(18層 G26-96区 南から)	10
図21 溝427遺物出土状況(18層 G26-97区 東から)	10
図22 溝427遺物出土状況(18層 G26-98区 北から)	11
図23 溝427遺物出土状況(18層 G26-99区 東から)	11
図24 溝427遺物出土状況(19層 G26-01区 東から)	11
図25 溝427遺物出土状況(22層 G35-10区 北から)	12
図26 溝427遺物出土状況(22層 G26-01区 北から)	12
図27 溝427遺物出土状況(22層 G26-02区 東から)	12
図28 溝427遺物出土状況(22層 G26-03区 北から)	12
図29 溝427遺物出土状況(22層 G26-04区 東から)	13
図30 溝427遺物出土状況(22層 G26-06区 北から)	13
図31 溝427遺物出土状況(22層 G26-90区 北から)	13
図32 溝427遺物出土状況(22層 G26-97区 北から)	14
図33 溝427遺物出土状況(22層 G26-98区 北から)	14
図34 溝427 18層出土木製品(1)	16
図35 溝427 18層出土木製品(2)	17
図36 溝427 18層出土木製品(3)	18
図37 溝427 18層出土木製品(4)	19
図38 溝427 18層出土木製品(5)	20
図39 溝427 18層出土木製品(6)	21
図40 溝427 18層出土木製品(7)	22

表目次

図41 溝427 19層出土木製品	23	表1 溝427 18層出土木製品観察表	50
図42 溝427 22層出土木製品(1)	24	表2 溝427 18層出土木製品観察表	51
図43 溝427 22層出土木製品(2)	25	表3 溝427 18層出土木製品観察表	52
図44 溝427 22層出土木製品(3)	26	表4 溝427 18層・19層・22層出土木製品観察表	53
図45 溝427 22層出土木製品(4)	27	表5 溝427 22層出土木製品観察表	54
図46 溝427 22層出土木製品(5)	28	表6 溝427 22層出土木製品観察表	55
図47 溝427 22層出土木製品(6)	29	表7 溝427 22層出土木製品観察表	56
図48 溝427 22層出土木製品(7)	30	表8 溝427 22層・遺構1054・遺構1061 出土木製品観察表	57
図49 溝427 22層出土木製品(8)	31		
図50 溝427 22層出土木製品(9)	32	表9 遺構1062・遺構1070出土木製品観察表	58
図51 遺構1054出土木製品	33	表10 遺構1070・1071出土木製品観察表	59
図52 遺構1061遺物出土状況(1:40)	34	表11 遺構1071、包含層5・6層出土木製品観察表	60
図53 遺構1061出土木製品	34	表12 包含層5層・6層・11層出土木製品観察表	61
図54 遺構1062遺物出土状況(1:40)	35	表13 包含層11層・12層出土木製品観察表	62
図55 遺構1062出土木製品	35	表14 包含層12層・13層出土木製品観察表	63
図56 遺構1070遺物出土状況(1:40)	36	表15 遺構出土木製品観察表 (遺構1012・1089・1113・1122、矢板列1093・1095)	
図57 遺構1070出土木製品	37		64
図58 遺構1071遺物出土状況(1:30)	38		
図59 遺構1071出土木製品(1)	39	表16 矢板列1082出土木製品観察表	65
図60 遺構1071出土木製品(2)	40	表17 報告木製品一覧(索引)	66
図61 遺構1071出土木製品(3)	41		
図62 遺構1071出土木製品(4)	42		
図63 包含層5層・6層出土木製品	43		
図64 包含層11層出土木製品	44		
図65 包含層12層出土木製品(1)	45		
図66 包含層12層出土木製品(2)	46		
図67 包含層13層出土木製品	47		
図68 遺構1012・1089・1113・1122出土木製品	48		
図69 矢板列 1093・1095出土木製品	49		

I 溝427 遺物出土状況と出土木製品

1. 溝427遺物出土状況

(1) 今宿五郎江遺跡第10次調査出土遺物の構成

第10次調査における出土遺物中最も分量の多いのは土器である。それについて整理の過程で秤量した。なお、出土量の多かった5層・5b層とした包含層については、調査現場において分別措置したため、秤量していない。また、石製品等別素材の遺物も含まれていない。結果として秤量した土器の総重量は6,700kg余となった。このうち、谷部包含層出土土器量が、1,200kg余、造構出土土器量が5,500kg余である。造構出土土器のうち8割強の4,580kgが溝427出土資料である。²⁰¹

また、多少なりとも人為的な改変が観察された資料を木製品として取り上げ、個体として記録したもののが1,100点余ある。このなかに器具、部材と分類して木器とするもの180点余を含む。木製品のうち溝427出土資料は約373点で、残りは谷部包含層及び別造構から出土した。

(2) 溝427 25層遺物出土状況 (図5)

溝427は、遺跡南縁から回り込み、調査区内でその東縁に沿い北へ向かう溝である。今宿五郎江第10調査では、調査区の南端から北端へ縱断する位置で検出した。溝427を埋める堆積層は調査では大きく4部層に分けて掘り下げ、遺物を取り上げた。以下、上位から各層ごとに遺物出土状況を報告する。

25層とするのは、溝427を埋積する堆積の最上部の層で、団粒状の地山土を含み、生成に人の関わりが疑われる層である。木炭を含む薄層を挟む場所がある。土器類は430kgと溝427出土量の10%ほどの分量が出土している。図5に示すように溝の半ば埋没した窪みの中央に、完形のままの土器を含みまとまって出土する部位がある。26-05区で目立って密に出土している。

(3) 溝427 16層遺物出土状況 (図6~13)

16層は、黒褐色泥炭質の粘土層である。土器は西岸側の流入土(23層)を含めて2,240kgと、50%近い量が出土した。26-02区と26-05区(図11)を中心とした範囲ではとくに多量出土した。26-04区(図10)から26-05区にかけて西岸から投棄したような状態が特に顕著に見られた。木質遺物の遺存はまれである。

(4) 溝427 18層遺物出土状況(図14~23)

18層はレンズ状の砂層と泥炭質層とが互層を成しており、流水下での堆積層である。溝427の土器は西岸からの流入層(21層)を含め1,090kg出土した(20%強)。出土量は南半部に偏在し、特に35-10区(図14)を中心とした調査区南端部特に多量の出土があった。2m区で50kg以上出土した区画がある。しかし、25層、16層であったような土器の投棄、流れ込みといったような出土状況は顕著でなく、洗い出しといふような出土状況といえる。

木質の遺物は本層以下出土の資料が大半である。160余点の木製品中に木器35点を含み、断片となつた樹木の中に混じて出土した。場所により特に樹木断片の多いところと比較的少ないところとが見受けられる。木製品の出土量は土器のそれと分布が似ている。とくに木器のみをみると35-10区、

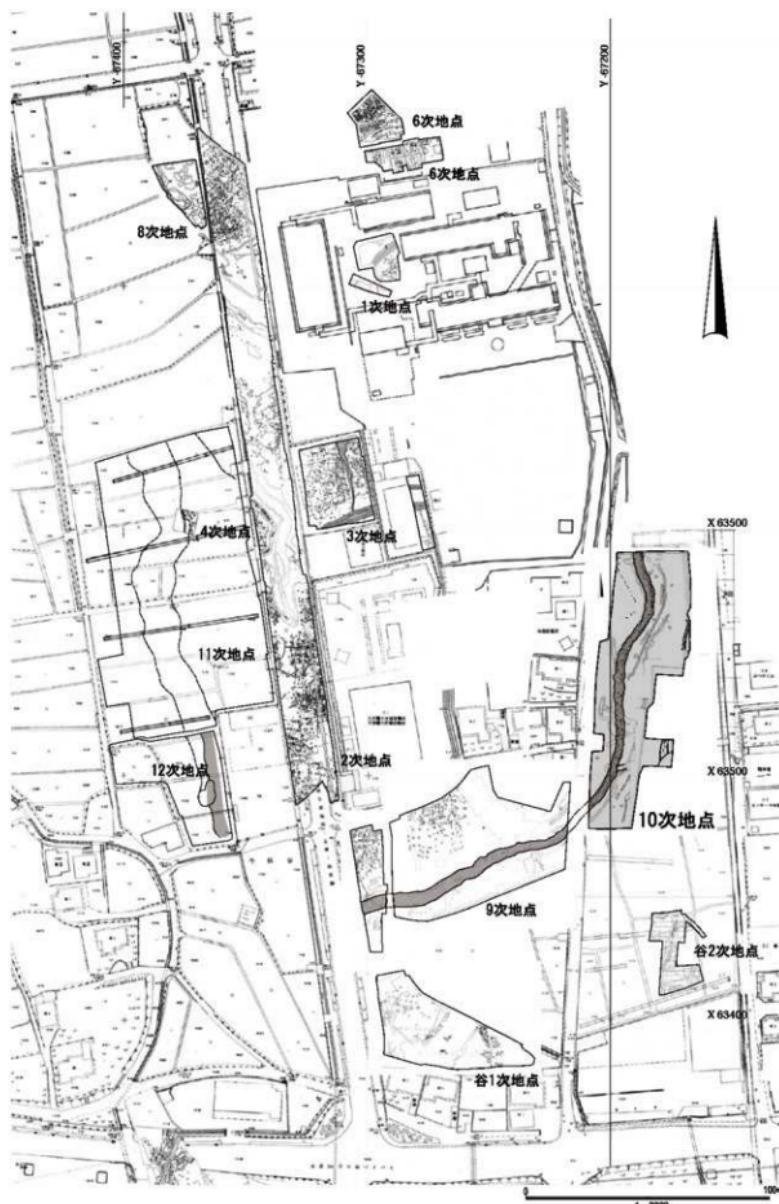


图2 今宿五郎江遺跡調查地點位置圖 (1:2,000)

26-03区(図17)、26-05区(図18)、
26-97区(図21)に集中している。

(5)溝427 19層遺物出土状況
(図24)

19層とするのは黒褐色泥炭質の層で、調査区北半部の限られた範囲に分布する。18層の堆積と併行するものかもしれない。

19層とした土器は約60kg、木製品7点、うち2点が木器である。

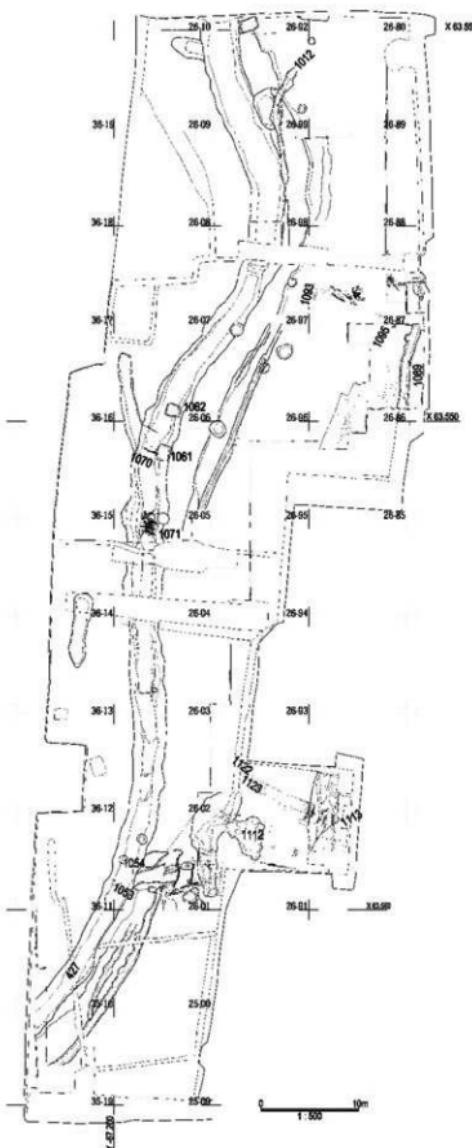
(6)溝427 22層遺物出土状況
(図25~33)

22層は、最下層の黒褐色泥炭質粘土層で、溝427の全域に分布する。上位の18層とは矢板列1071の遺存状況から不整合の関係にあると考えられる。

遺物は上半部に多く出土している。土器は190kg余出土した。特に35-10区(図25)、26-03区(図13)に集中する。木製品は190点、うち木器が39点と溝427中では最も多く出土している。

土器について、投棄あるいは流入したような出土状況は確認できなかった。木器は調査区北半部に多く、特に26-01区(図26)、26-02区(図27)、26-03区に多い。

26-03区辺りから下流側(北側)は、木質の遺物は淀みにたまつたような状態を示す。この位置に遺構1071がある。



註) 十層についての説明は、『今宿五郎江7』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1009集
2008

図3 今宿五郎江遺跡第10次調査全体遺構図 (1:500)

2. 溝427出土木製品

(1) 溝427土木製品(図34~40、表1~4)

溝427出土資料のうち、木製品として登録したのは、溝中検出遺構からの出土資料を除き428点である。なかで木器とするものは81点で、残りは少數の杭、矢板のほかは、削材等最低限の手が加わったもので木材と分類した資料である。

10m区ごとの数量を見てみると、調査区の南半部で約6割、南2/3では9割が出土しており、出土数に偏りが見られる。木製品全体の分布を見てみると、それほど大きな偏りとはならない。

以下、出土層順に木器を報告する。なお、個別資料の計測値など詳細は後掲表に示す。

(2) 溝427-18層出土木製品(図34~40、表1~4)

18層からは、189点の木製品が出土し、このなかで36点の木器がふくまれる。このなかで最も多く出土したのは箒(やす)で12点、次いで柔の類、横柵、堅杵がある。

鉤 図34・34に示す。1347・1893・2580・7610は叉鉤である。刃部を欠く資料2580は三叉鉤である。他の2点も各部位の形状は、2580によく似ている。資料13・49、1587は、叉鉤とみるが、形状については、疑問が残る。鉤とするならば二叉鉤と考えられる。

えぶり(図36-1417-3278)ともに、柄孔は方形で、体部と柄が直交に近い取り付け角度となる。柄孔の周囲は片面側を島状の高まりに残し、他面を緩くくぼめた様な形状に整形している。刃部とする縁は、急な角度削ぎ落したようになって、厚い刃縁を形成している。但し割れ面と見える部分があり、若干の疑問が残る。

鋸 1531(図37) 刃部が非対称であるが、刃付けが行われている。張出しがない側には肩に対応する部分にその痕跡が残るように観察され、破損したものの再利用とも見える。2460(図39) 紗子とも見えるが、縁部に刃付けがなされているようあり、組合せの鋸の可能性を考える。

鉤柄 1393 完存資料である。着柄部を除き、器表は平滑である。柄取付部の切欠きから、かなり急な角度での着柄が想定できる。

柄 1579 装着部に、平坦面を削りだしているが、幅が狭い。それ以外の造作は見られない。

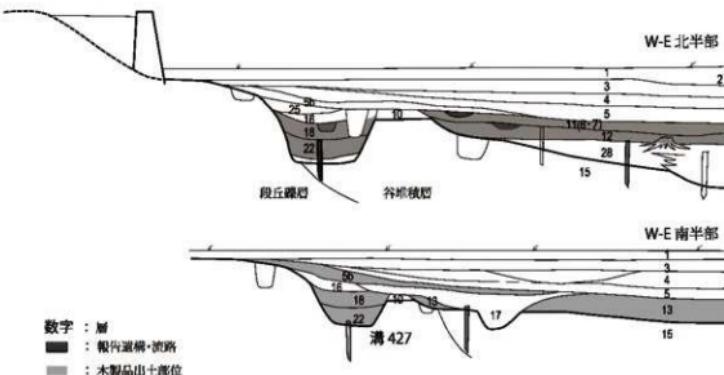


図4 今宿五郎江道路第10次調査地点土層模式図



図5 漢427遺物出土状況
(25層 G26-99区 北から)



図6 漢427遺物出土状況
(16層 G35-10区 北から)



図7 漢427遺物出土状況
(16層 G26-01区 北から)



図8 溝427遺物出土状況
(16層 G26-02区 北から)



図9 溝427遺物出土状況
(16層 G26-03区 北から)



図10 溝427遺物出土状況
(16層 G26-04区 北から)



図11 溝427遺物出土状況
(16層 G26-05区 北から)



図12 溝427遺物出土状況
(16層 G26-97区 北から)



図13 溝427遺物出土状況
(16層 G26-98区 北から)



図14 潟427遺物出土状況
(18層 G35-10区 南から)



図15 潟427遺物出土状況
(18層 G26-01区 北から)



図16 漢427遺物出土状況
(18層 G26-02区 南から)



図17 漢427遺物出土状況
(18層 G26-03区 北から)



図18 漢427遺物出土状況
(18層 G26-05区 北から)



図19 構427遺物出土状況
(18層 G26-06区 北から)



図20 構427遺物出土状況
(18層 G26-96区 南から)



図21 構427遺物出土状況
(18層 G26-97区 東から)



図22 濱427遺物出土状況
(18層 G26-98区 北から)



図23 濱427遺物出土状況
(18層 G26-99区 東から)



図24 濱427遺物出土状況
(19層 G26-01区 東から)



図25 槽427遺物出土状況（22層 G35-10区 北から）



図26 槽427遺物出土状況（22層 G26-01区 北から）



図27 槽427遺物出土状況（22層 G26-02区 東から）



図28 槽427遺物出土状況（22層 G26-03区 北から）



図29 潟427遺物出土状況
(22層 G26-04区 東から)



図30 潟427遺物出土状況
(22層 G26-06区 北から)



図31 潟427遺物出土状況
(22層 G26-90区 北から)



図32 溝427遺物出土状況
(22層 G26-97区 北から)



図33 溝427遺物出土状況
(22層 G26-98区 北から)

横槌 図38(1345・1353・1503・1507・1508・2329・2330・2955・7592)を一括して横槌とするが、細身のものには、堅杵かと思われる資料がある。2955以外では柄端の作り出しが不明瞭である。一方、掲面の状態も腐蝕もあって不明瞭である。なお、7592では、体部と柄部の境界線上に細い巻線が刻まれている。細身の資料は、黒色緻密な木材を利用している点、特徴的である。

簪(やす) 図39(1384・1572・2380・2410・2471・9441)に示す。形状、特に太さについて幅があり、一括分類するには難がある。基部とする側は斜めに削ぎ落して広い平坦面を作り出しており、着柄あるいは組合せのための整形かと思われるが、出土時にそれとわかる状態は観察できなかった。2471は中央に切欠き、9441は先端近くに切欠きを設けている。1384・2380は太く、ともに先端部は相応に鈍い。

尖頭器7567 特段の整形痕は認められないが、籠状の木材の端部が磨いたようになり、尖頭部を形成する。

切欠きのある部材 937 形状に整形した薄い板材の一片に1カ所、対応する辺に2箇所の切欠きを設けている。使用による擦れ等は残らず、各面は新鮮なままである。

2631(図39)は両端部が楔状を呈し、中央部の片側を弧状に削り込み把手状に整形する。

1385(図40) 穿孔がある板状の木器である。平面形は小判形と復原でき、中軸をややそれた位置に1対の穿孔がある。その向き合った縁部が紐ずれのように産んでいる。

杭 7613(図40) 頭部まで遺存し全形を知ることのできる資料である。

棒状の加工品 9444は、丸木の一端を断面台形状に整形し、他端を斜めに切断する。杭のようであるが尖頭部を作出しない。

扉板2637(図40) 上下端とも割れ面と見えるが、詳細不明。軸等は観察できない。中央部付近に1箇所、片側に寄って対になる2箇所に長方形の穿孔を行う。中央の欠損部は検出時にはつまみ状の長方形突起が遺存していた。

(3) 溝427-19層出土木製品 (図41、表4)

19層からは、10点の木製品が出土し、このなかで2点を木器と分類し、図示する。19層は限られた範囲で確認し、遺物量も少量となった。

容器1342 細片資料である。口縁の形状から円形の平面形を想定すると、足付きの盤と復原できる。横木取りの材から削り出すもので、口縁部は鋤先状を呈し、その外側に脚が付く。脚の数は不明。脚部のみ遺存状態がよく、螺旋状の細い削り面により整形されたことがわかる。復原する口径は39cm、遺存部の高さ5cmを計る。

堅杵1378は、長軸方向の細い削り面で整形されている。掲面は平滑な平面となり、光沢を生じている。

(4) 溝427-22層出土木製品 (図42~50、表5~8)

22層からは、190点の木製品が出土し、このなかで39点が木器である。このなかで最も多く出土したのは鍼の類で9点、以下は目立って多いものはない。各種の柄とする資料がある。34点を図示する。

図41~44に鍼を示す。

狭鍼2640(図41) 片側1/3を欠く。身部が長く薄い。刃縁の整形は不明であるが、全体に刃に向かい薄くなる。

又鍼(図42-1755・2439) いずれも破片である。刃部資料2439の器表は風化したようになっている。

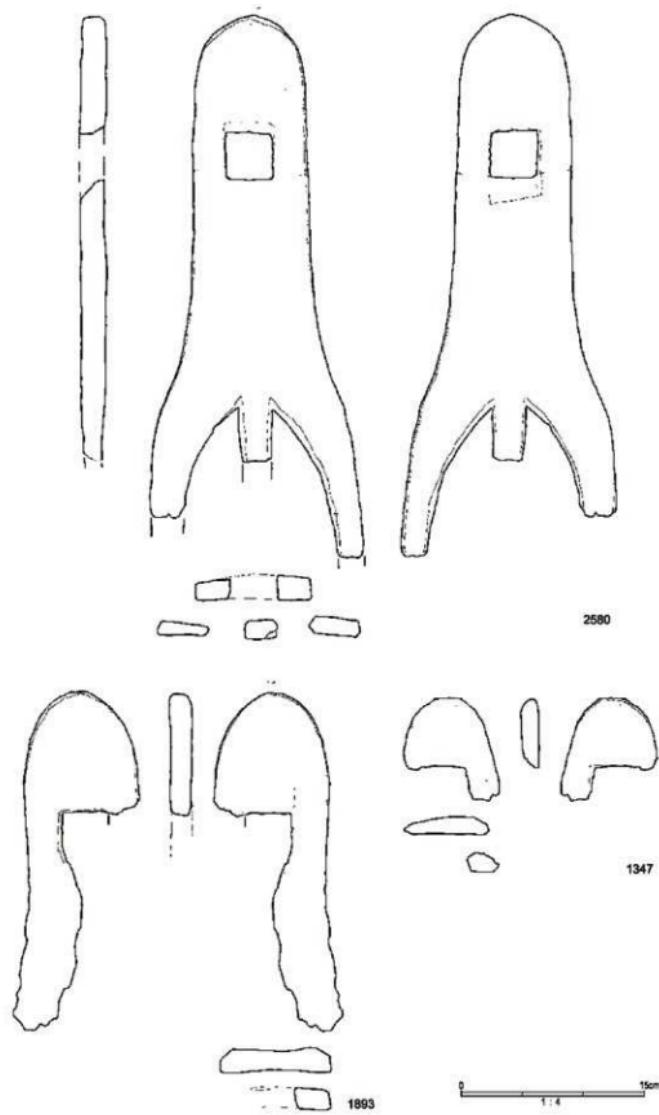


圖34 携427 18號出土木製品(1)

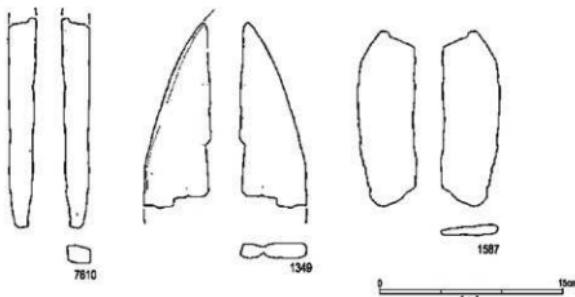


図35 溝427 18層出土木製品(2)

平鉗(図42-2505・7605、図73-1744・1778、図44-2596・2599)のうち多くが後面中位に段を作り出す。鉗2505では、粗い剖面で大きく剥がして段を作り出し、剖面をそのまま残している。刃部は弧状を呈す。木取りによるものかもしれないが、全形のわかる資料では鉗前面は長軸方向、短軸方向ともやや弧状を成す(2596・2599)。

7605・1778は腐蝕が著しく進行し、とくに7605は原形を判別するにも難がある。薄く、やや疑問が残る。

各種の柄を図45、図46、図47(1609-3133・1618)、図48に示す。

柄未成品1649(図45) 細い樹幹と枝の端部を切断したままの資料で台部相当部が細いことあって、柄として加工されるものなのは疑問が残る。

斧柄とする2602(図45)・1604(図46)は、台部の整形は行うが、斧装着部の加工が明瞭でない。2602では装着部相当部が欠損する。3046(図46)は台部相当部が丸みを持つ上小径であり、斧柄としては疑問である。別部材の可能性もある。1609(図47)は、柄の大半を欠くが、明瞭に台部に装着のための段を作り出している。横斧である。柄3133(図47)の台部各面は平滑で、中央が膨らんだ直方体状に整形されているが、装着のための加工は見て取れない。また、柄端は短い位置で切断され多面体状に整形されている。この形状で完成した器具である可能性も考えられる。

1618(図47)は膝柄台部と見られる断片化した資料である。着柄部は失われ、台部下部に切欠きを持つことになる。1346(図48)は木成品とする。太い樹幹とごく細い枝部を利用した膝柄状の木成品である。台部の全体両側から削り広い平坦面を作り出し、柄以上はさらに曲線状に薄く削り断面鎌報形状となる。柄に相当する枝の径はごく細い点疑問が残る。

7590(図46)も柄とするが着柄の状況を想定できない。芯去り材を用い、前端部とする位置にたがのように帯状の高まりを作出する。端面には、柄軸に一致する位置に突起を残す。柄尻側は反りながら細くなっている。1478(図46)はさらに加工が少ない。両端の一部に浅い切欠きがあり、その周辺を長軸方向の細い削り面で調整している。全体に樹皮は残らず節目も残さない。やはり使用状況を想定できず、他部材の可能性がある。

堅杵2700(図47) 長軸方向の細い削り面で整形後、加工若しくは使用により器表が平滑になっている。撫面は半球状、平滑で光沢をもつ。

横槌2966 細身で比較的長軸方向比較的幅広の削り面で整形している。柄端をやや膨らませる。

鑿状の木器7591(図47) 全体を長軸方向の削り面で整形し、断面不整な円形状を呈す。頭部(基部)

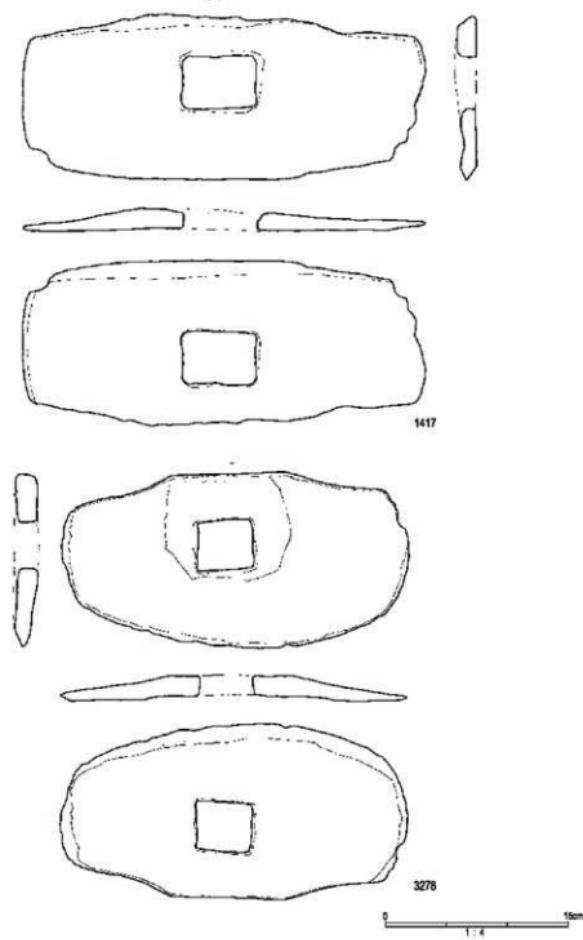


圖36 漢427 18層出土木製品(3)

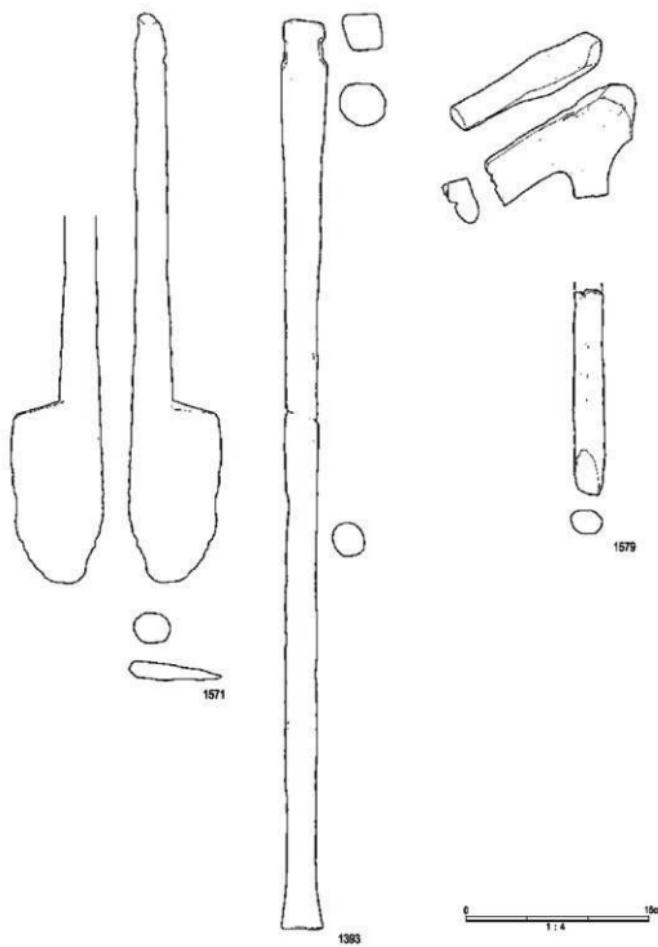


圖37 槽427 18層出土木製品(4)

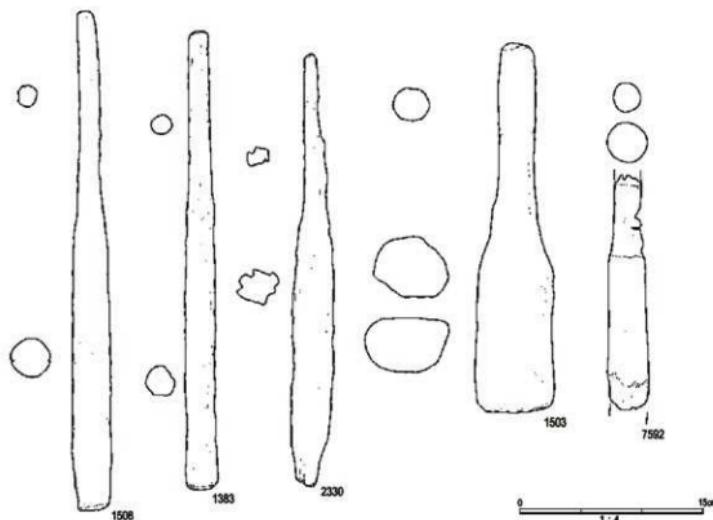
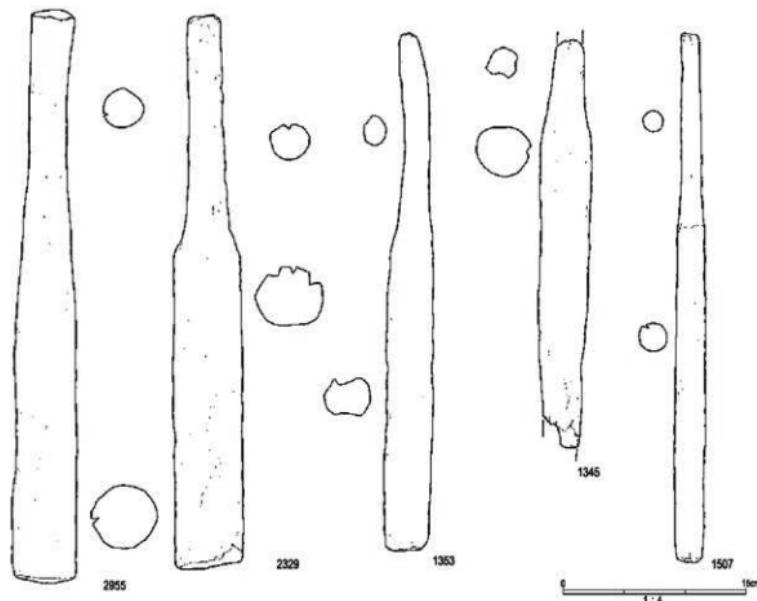


圖38 漢427 18層出土木製品(5)

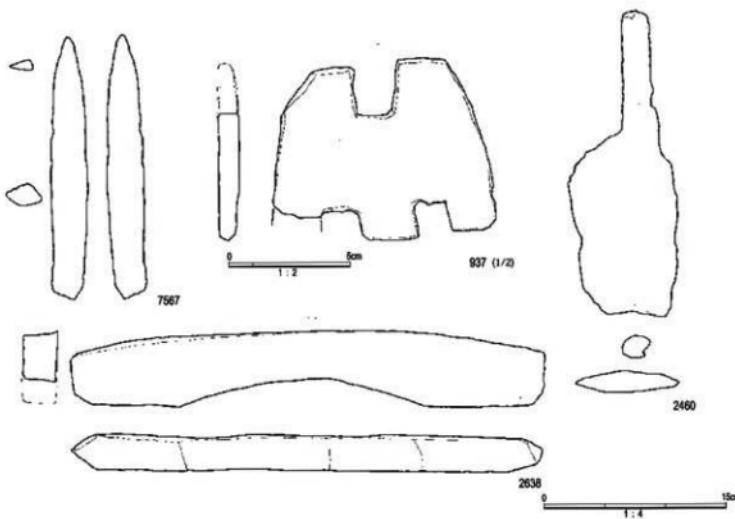
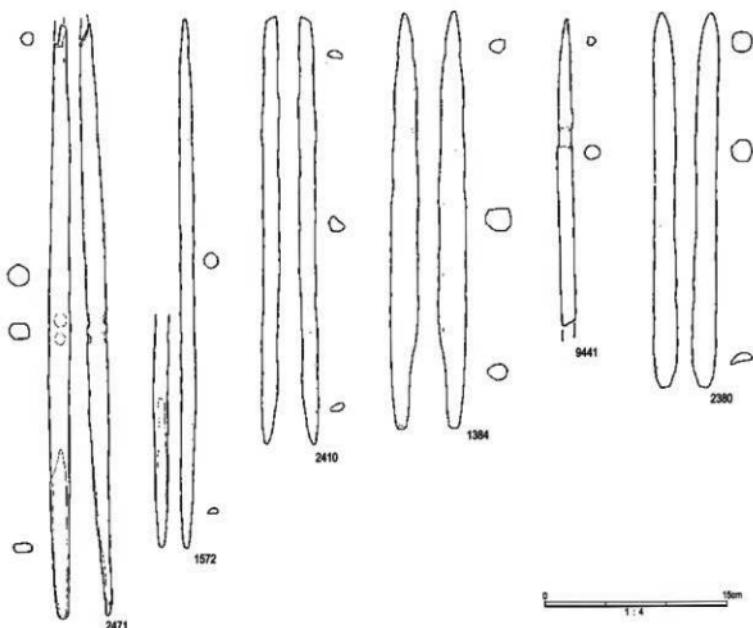


圖39 漢427 18層出土木製品(6)

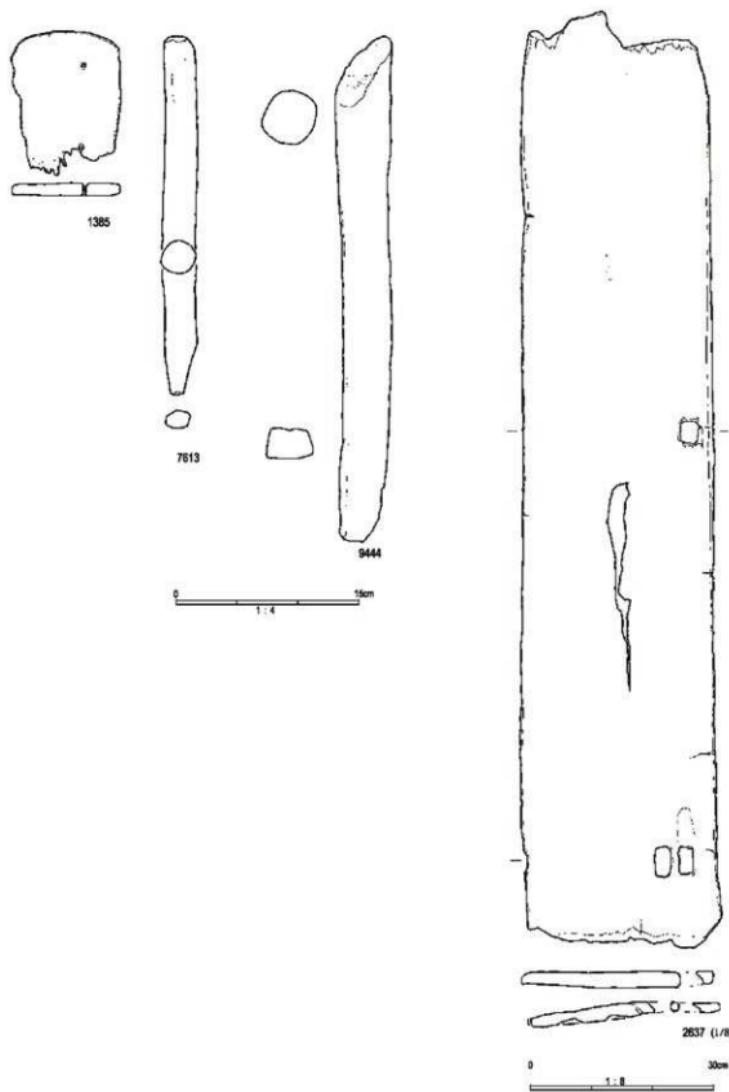


図40 溝427 18層出土木製品(7)

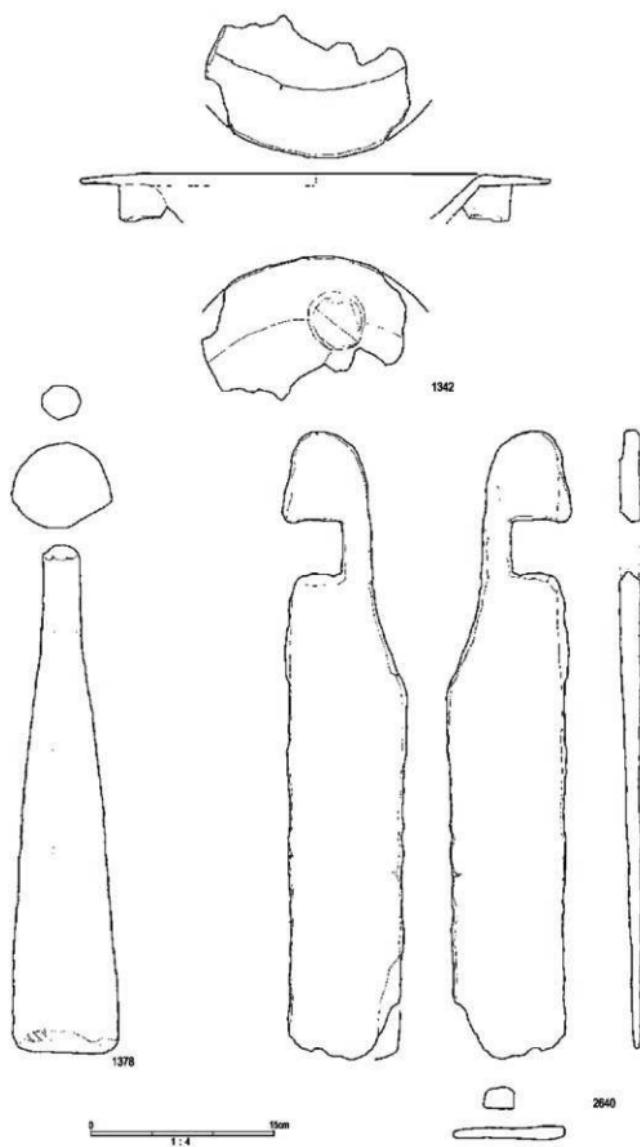


图41 清427 19层出土木制品

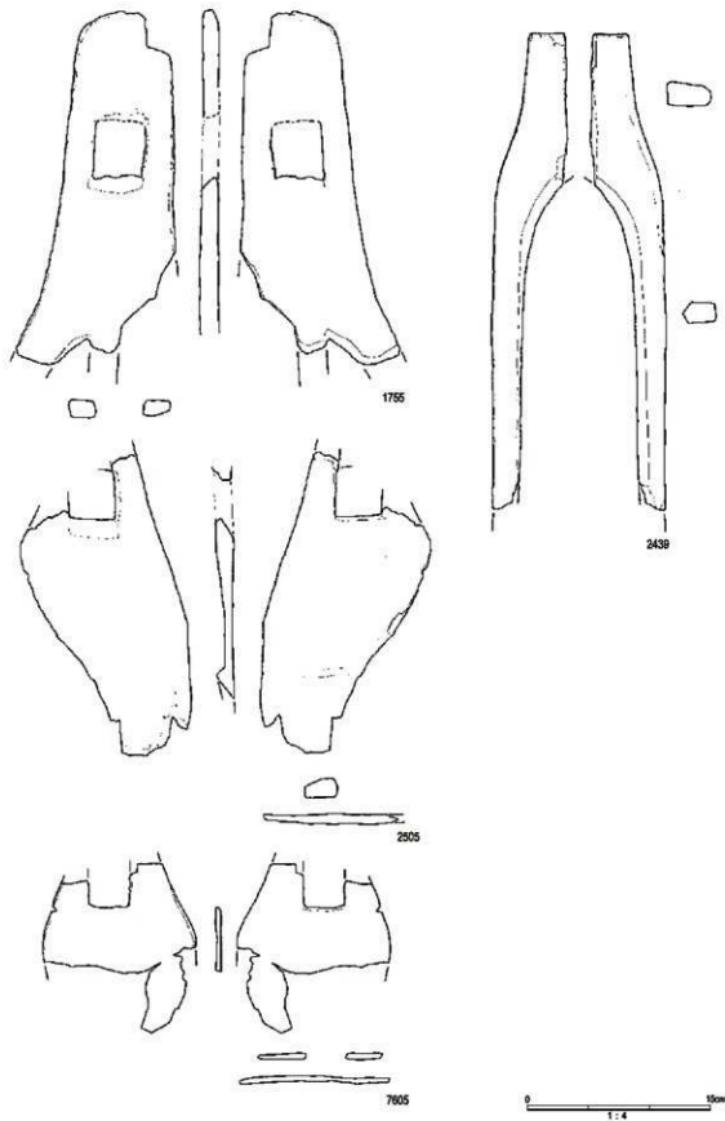
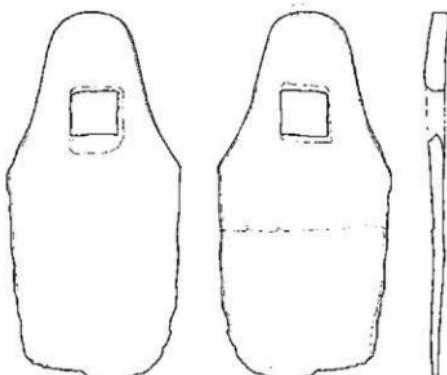
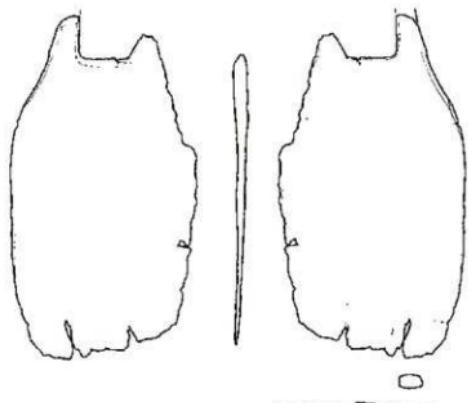


圖42 漢427 22層出土木製品(1)



1744



1778

0
1.4
5cm

図43 構427 22層出土木製品(2)

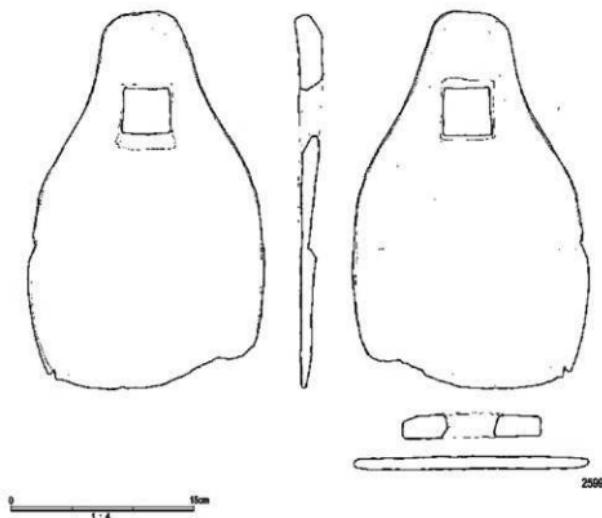
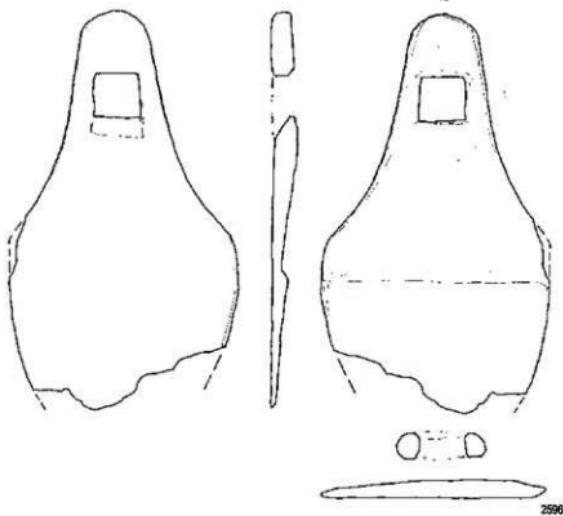
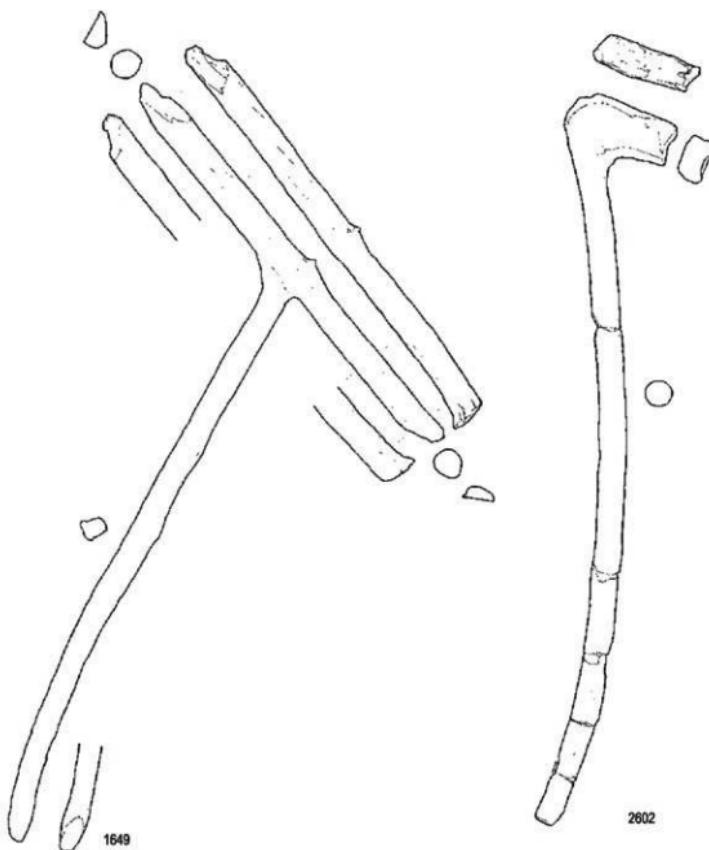


圖44 洪427 22層出土木製品(3)



0 1:4 19cm

圖45 清427 22層出土木製品(4)

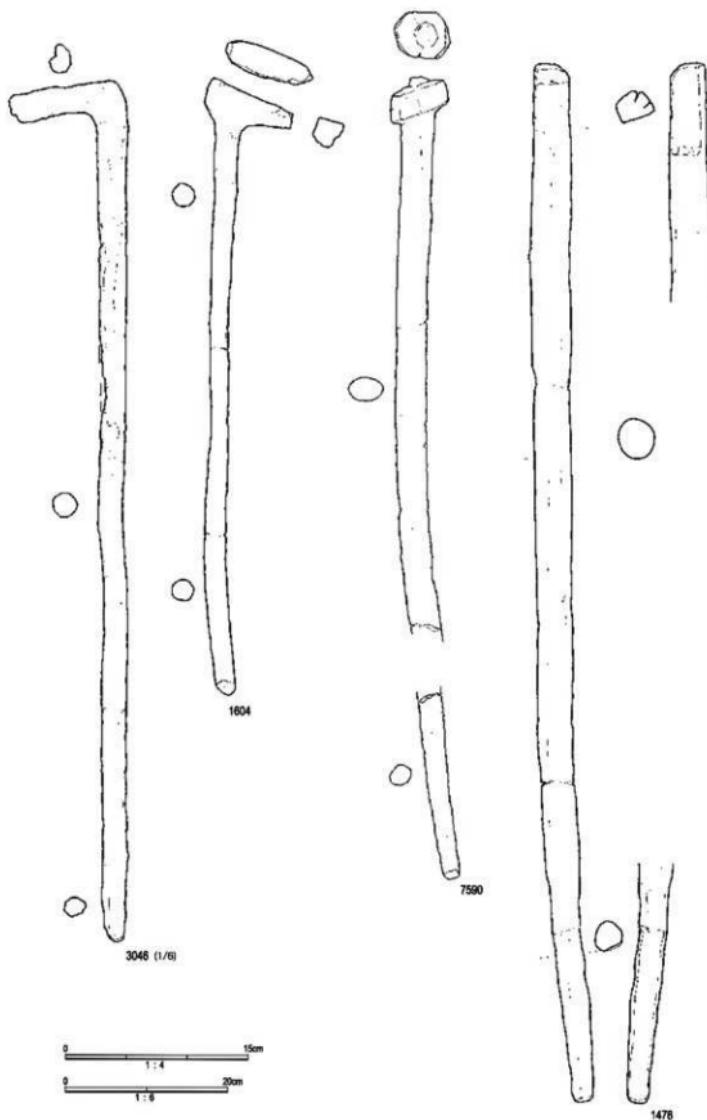


圖46 構427 22層出土木製品(5)

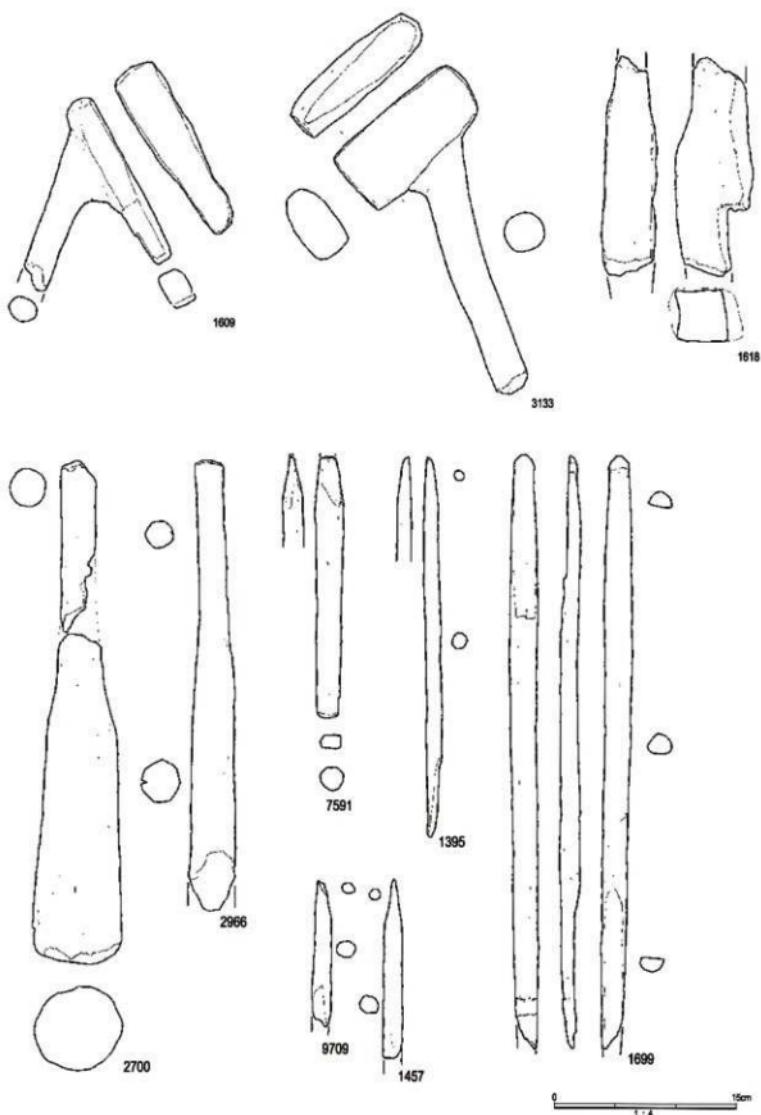


圖47 溝427 22層出土木製品 (6)

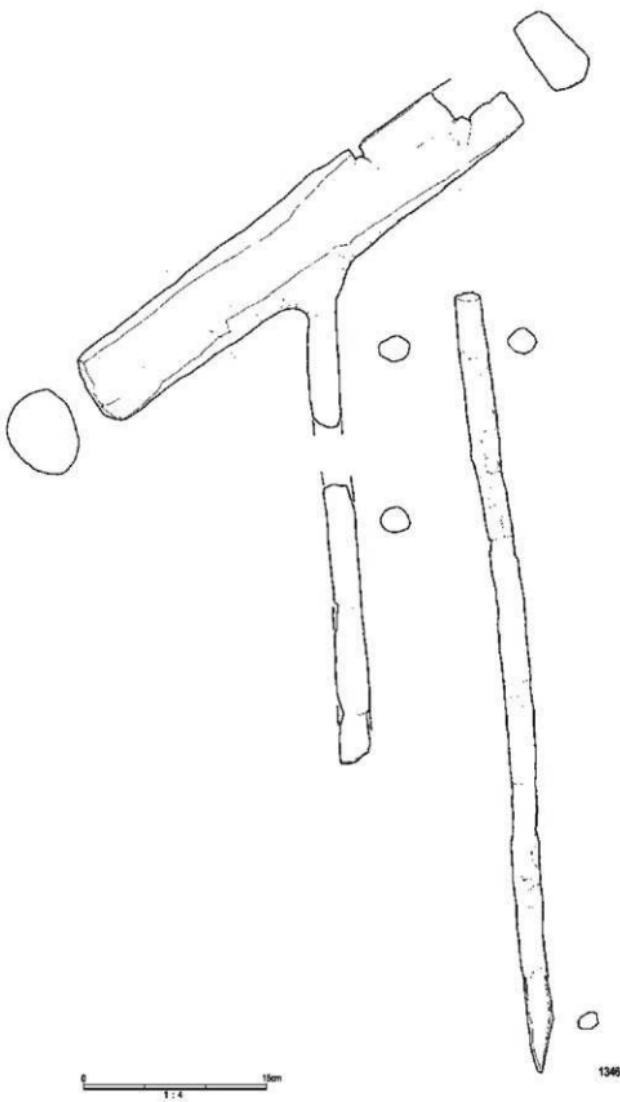


圖48 標427 22層出土木製品(7)

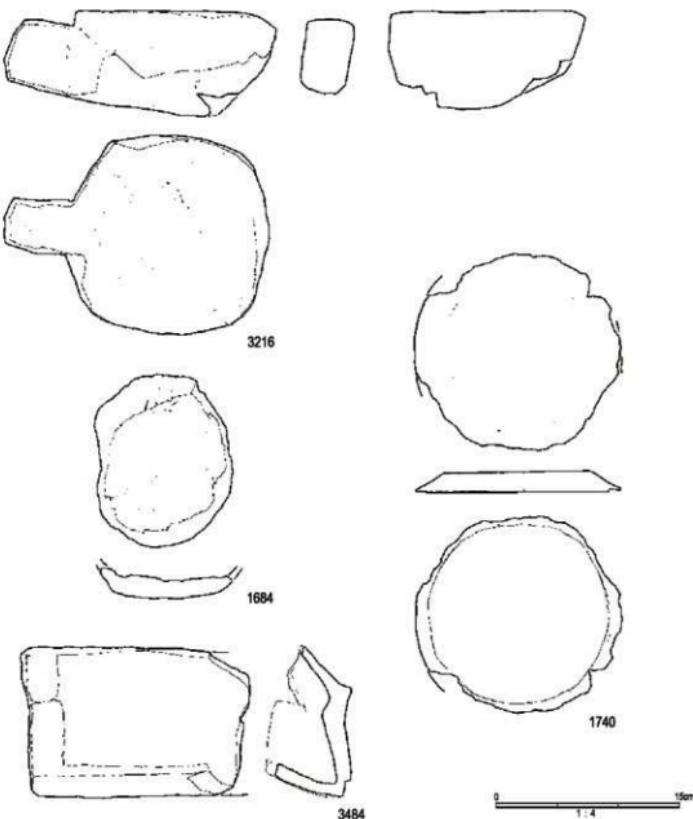
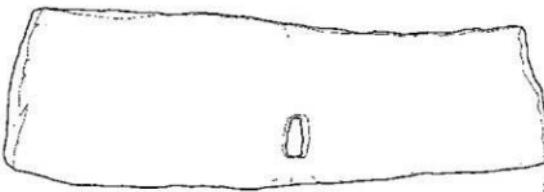
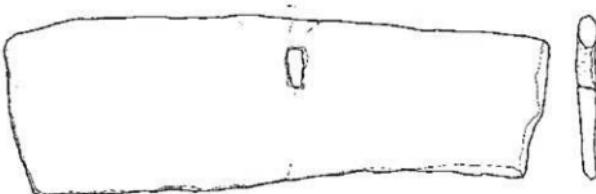


図49 溝427 22層出土木製品(8)

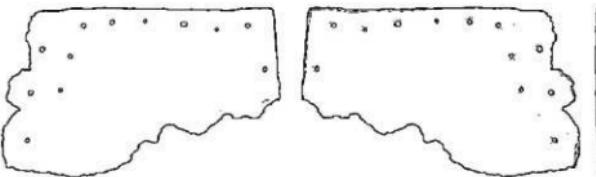
とする端部は細かな削り面で半球状に整形されている。刃部は表裏両面からの削り面で鑿刃状を呈す。刃縁部を欠く。

箒（図47-7591・1395・9709・1457） 半ばを欠くか細片の資料である。いずれも細身の器形で、使用する木材は黒色緻密である。箒1395の先端は端部を欠くが残る部分は黒化し固い。あるいは加熱して硬化させたこともかんがえられないか。

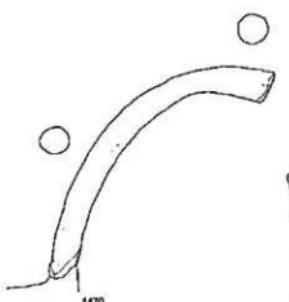
弓1699（図47） 半ばを欠く資料である。全体を長軸方向の細い削り面で整形し、端部とおそらく中央部と思われる位置を刻み込んで段を作り出している。段は、端部では半円形状、他方は低い帯状を呈す。弓とするならば前者が弓管となる。両端の対抗する位置をごく浅い角度で斜めに削り取ったようになつた状態で出土した。削り面は整っており、端部のそれは明らかに複数回の加熱により形成されたものである。



2474



1617 (1/2)



1470



1505 (1/2)



7588



7586

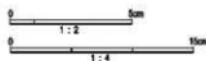


图50 槽427 22层出土木制品(9)

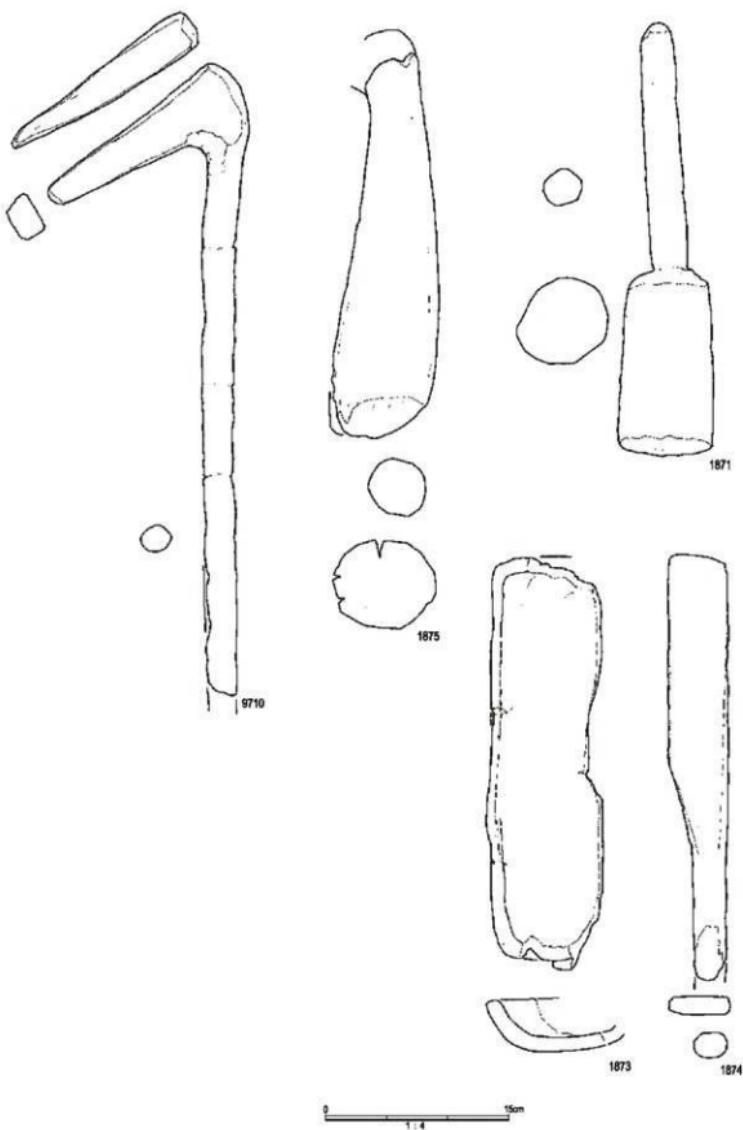


圖51 1054出土木製品

容器を図49に示す。

杓子3216 未成品である。半裁した木材の半裁面を上面とし、容器本体と把手を荒く削り出した段階で、上面は平坦な割れ面である。

容器1684 底部資料である。丸底で、外面は粗い削り面で整形する。内面には丸鑿のような工具痕が残る。

蓋1740 平面形がほぼ円形で、断面は台形状を呈す。下面には嵌合部がわずかな段となって残る。外面の全面に黒色の漆を塗り、外縁・稜部・中心点の位置に赤漆を塗る。前2箇所は圓線状、後1箇所は不整な円形状となる。内面には黒褐色の樹脂を薄く塗布している。円筒形容器の蓋とされる資料である。

板状の部材2474(図50) 不整な長方形の板の片側の長側辺近くに長方形の穿孔を行っている。表裏面は広く平坦な削り面で整形されている。板の長側辺には面取りを行い、両端片側は薄く削っている。孔は刀子状の工具で抉り取ったものか、壁面に段状の工具痕が残る。長側辺側の孔縁部は丸みを帯びており、紐づけの可能性があるが、どのような位置にあつたは想定できない。

孔列のある板状部材1617(図50) 四辺形の2片を欠いている。薄くやや湾曲した不整な台形状の板材の3辺にほぼ等間隔の穿孔を行う。孔は径2mmほどで短辺側では2列になった部分がある。

杓子1470(図50) 柄部のみが遺存する。大きく弧状に反る全体を軸方向の削り面により整形している。下端に平坦面がわずかに残り、本体部の一部かと思われる。

木鎌1505(図50) ほぼ完形で出土したが、乾燥収縮し、変形している。一見すると浮子のように見えるが、先端部の側面観は木鎌のそれである。

板状の部材 7588(図50) おそらく長い部材の断片資料である。細長い板材の側面を丸く整形したようになっている。木目が浮いているのは風化によるものか。

削片7586(図50) 加工時の削片とみる資料である。調査中、木材加工に伴う残滓に留意していたが、まとまって出土するような状況は確認できなかった。まとめて取り上げた木質資料の中に散見するが、そのままでは細かく砕けてしまうものが多く、残すことのできた資料は少ない。

7586は、削り面のある部分を削り取った際に排出されたもののようにある。ここでは表の削り面に刃物痕とみえる不規則な線状痕が見られ工作台等への利用があつたものかもしれない。

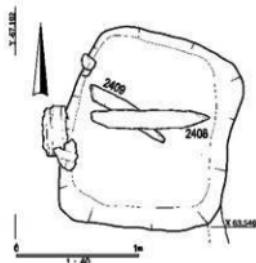


図52 遺構1061遺物出土状況 (1:40)

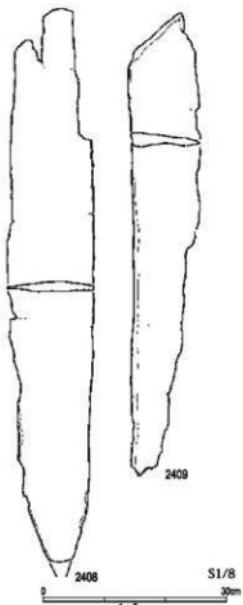


図53 遺構1061出土木製品

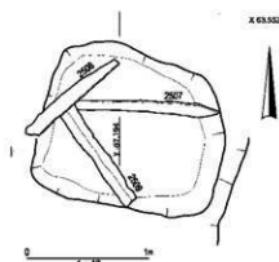


図54 遺構1062遺物出土状況 (1:40)

(5) 溝427中検出遺構出土木製品

(図53~62、表8~11)

以下、溝427掘り下げ時に検出した遺構出土木製品について報告する。

遺構1054（図51、表8） 遺構1061・1062とともに、18層を掘り込むような位置で検出したものである。黒褐色泥炭質の粘質土層から木器類がまとまって出土したことから、設定遺物を取り上げた。大部分はすでに掘削した後で、形状等詳細は不明。木器とするものは5点出土した。

柄9710 膝柄である。台部量側面を広く平坦に削り、下端に向かい細くなる。正面観も同様で、鶴嘴状を呈す。装着部に特別

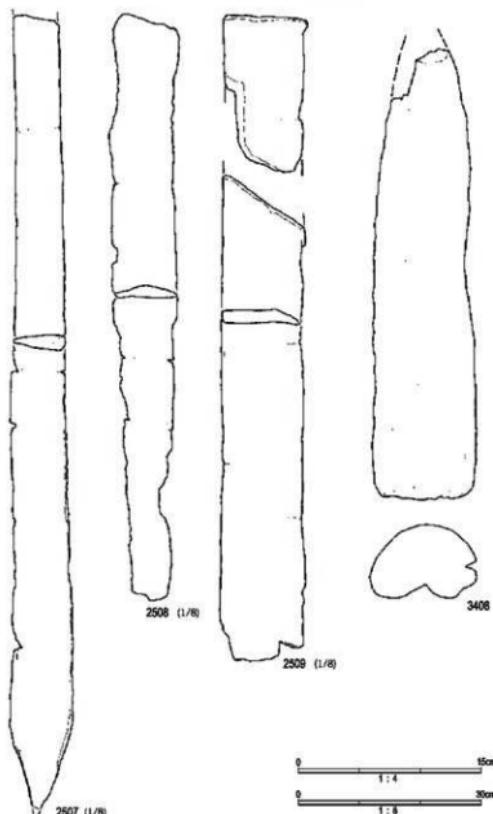


図55 遺構1062出土木製品

の加工は見られない。

横杵1875 着柄部を欠く資料である。樹幹を利用して全体が涙滴形となるよう整形している。摘要は軸に対して著しく傾いている。

横槌1871 槌部と柄とを明確に作り分けている。全体に長軸方向の削り面により整形している。

樋1873 片側を各資料である。内外面とも研磨を加えているものか、平滑で光沢を持つ。長軸方向の片側の端部に把手を作出する。

樋形木製品1874 片側が広く広がる非対称の形状で、広く浅い削り面により整形されたものと見える。小形で、縁辺に刃部は作り出されておらず、柄は断面円形である。あるいは叩き板のようなものか。

遺構1061 (図52-53、表8) 不整な長方形土壤状の落ち込みから重なりあって矢板が出土した。

矢板2408は、幅広の割材の先端両側辺を斜めに削ぎ落し尖頭部を作出している。長さ90cm、幅14cmを計る。割材2409の頭部には材木の切断面が残る。

遺構1062 (図54-55、表9) 遺構1061と同様の出土状況で、矢板及び割材が出土した。

矢板2507は頭部を欠く。割材端部の両側辺を斜めに削ぎ落し尖頭部を作出する。長さ129cm、幅9cm、厚さは3cmを計り、矢板の原状をある程度知ることができる資料である。2508、2509はとも

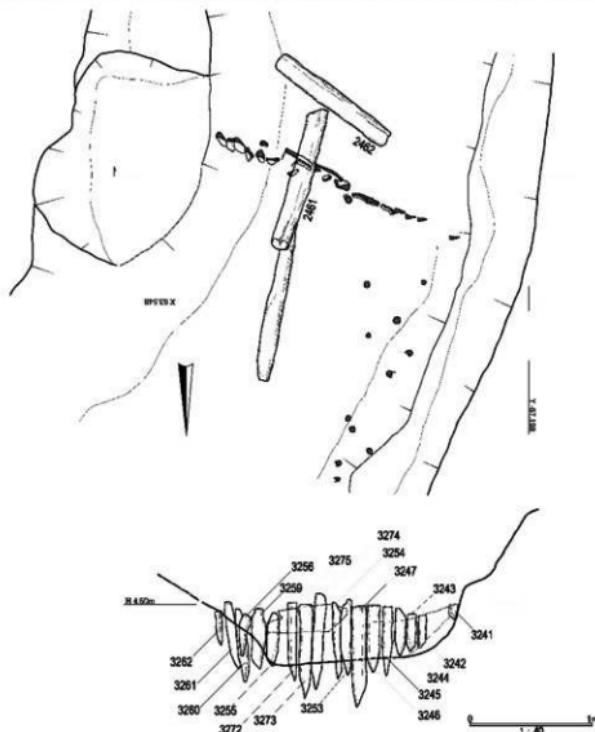


図56 遺構1070遺物出土状況 (1:40)

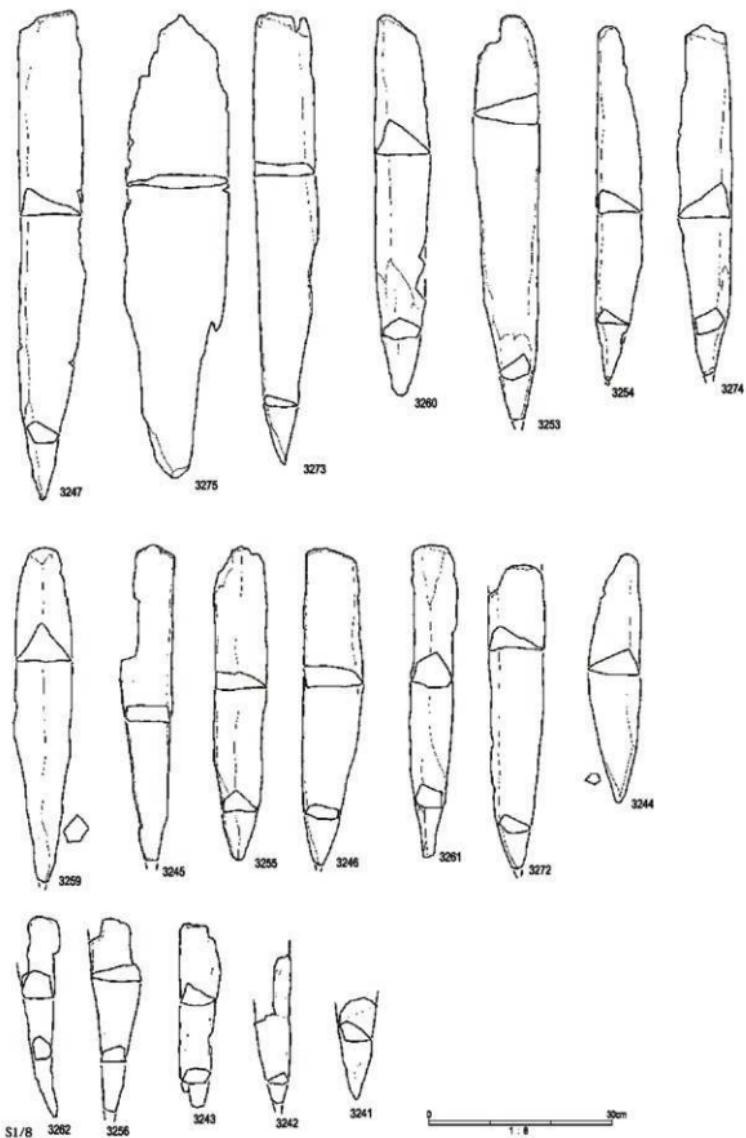


圖57 1070出土木製品

に割材で、端面は切断面が残る。

遺構1070（図56・57、表10） 井堰状の矢板列である。上部は失われた状態で出土した。やや厚い割材の、両側縁を斜めに削ぎ落して尖頭部を作出するものが多いが、削り面が表裏に及ぶもの（3260）、素材の形状を生かすもの（3244・3259）、片側を集中的に加工するもの（3242・3247）等がある。遺存状況の差ではあるが、最長79cm、最小17cmの資料がある。

遺構1071（図58～62、表10・11） 22層で検出した。矢板を含む割材が集積したような状態で出土したものである。掘り込みなどは確認できなかった。水流に押し流され集積したものかもしれない。

出土木材・矢板には長短の幅がある。最長の割材は166cm、最短は42cm、平均99cmとなるが、端部を欠く資料も多く、実際の平均はこれより大きいものとなる。因みに溝427出土資料では、計測の終わった中では長さ267cmのものが最長で、100cm以上のもので99点出土している。

遺構1071を構成する資料のうち25点を図示する。

2647は最長の資料であるが、先端に加工があり、杭または矢板とできる。前出の遺構1061・1062とは異なりごく細身で比較的厚い。

割材等に混じり、木器その他が出土した。本来溝427の22層とすべき資料であるがここで報告する。

横穂9706（図62） 今回報告中で最も大形の資料である。頭部端を削り面で整形するもので、長さ57cmを計る。

切断面のある棒状材9704・9705は共に端部のみの資料で全形が分からぬ。

削片2702 長さ約6cmほどで、上面に選考する削り面を残している。

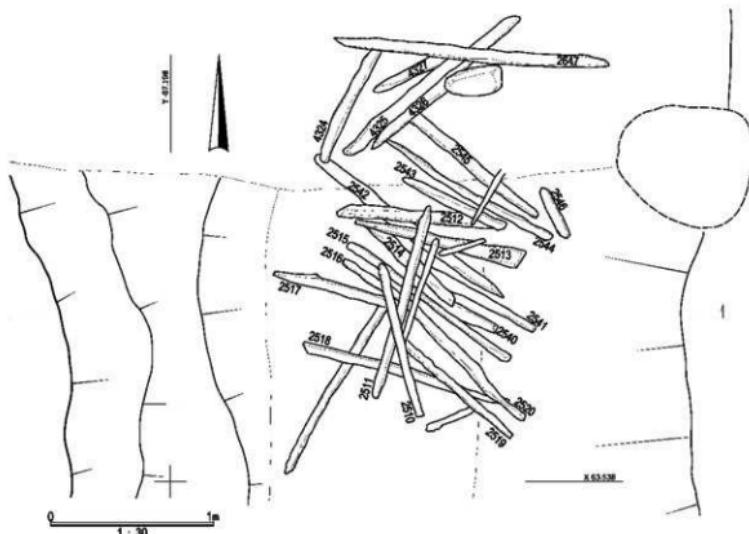
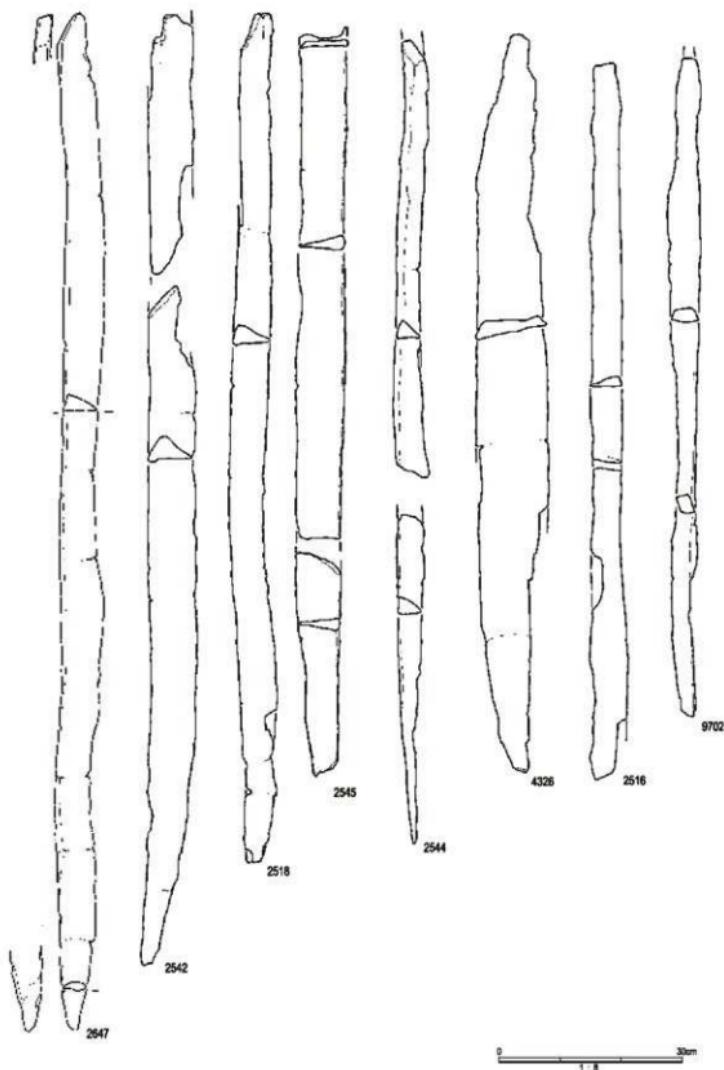
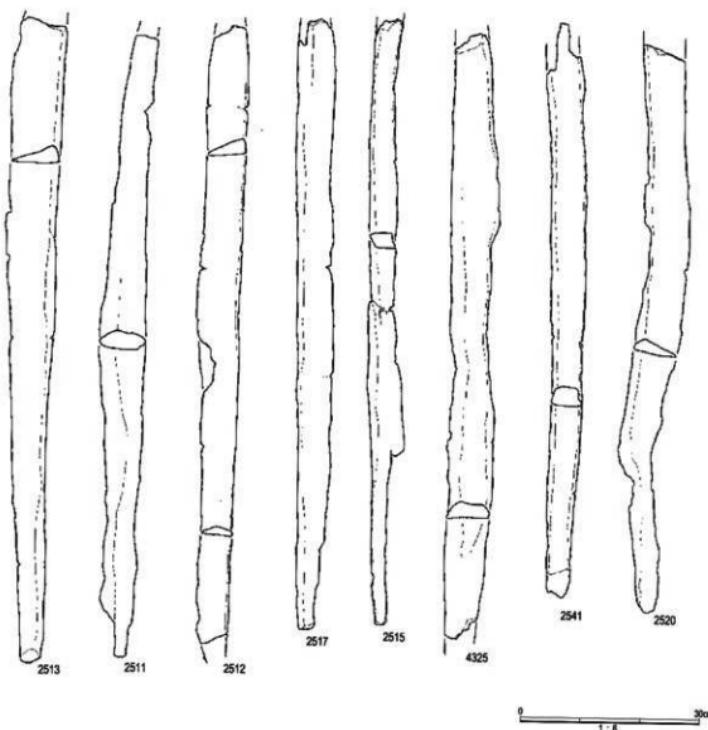


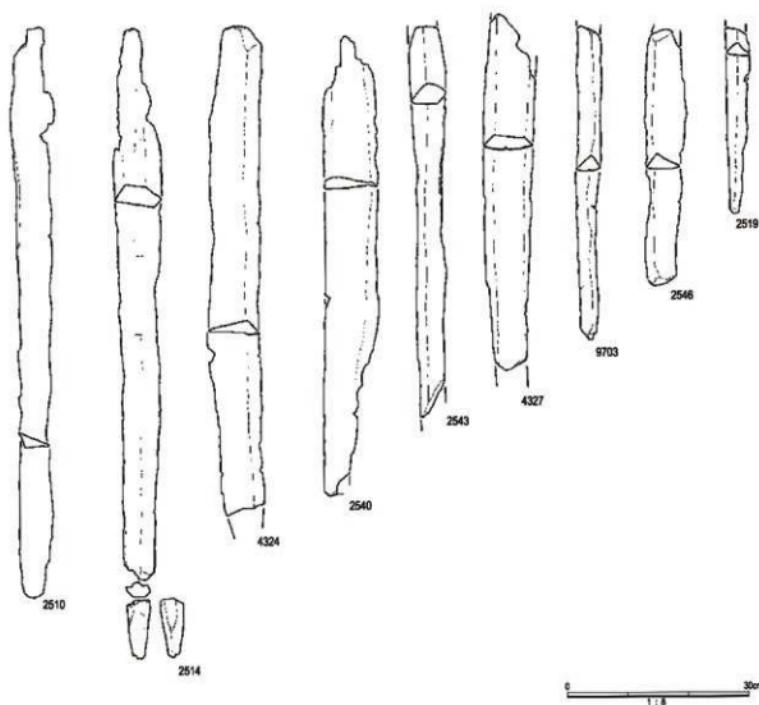
図58 遺構1071遺物出土状況（1:30）



S1/8

圖59 旗山1071出土木製品 (1)





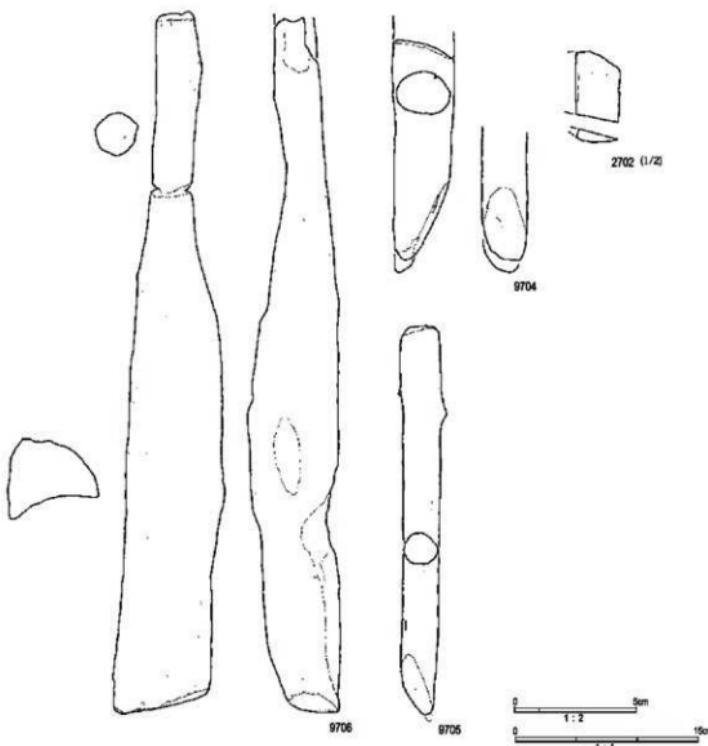


図62 遺構1071出土木製品(4)

II 包含層及び谷部遺構出土木製品

1. 包含層出土木製品

5層出土木製品 (図63、表11-12)

5層は谷部の全域に分布する。木製品が出土するのはその最下部であり、5b層とした洗い出し部位もこれに含めて報告する。調査では10点の木製品をとりあげ、木器としたのは5点である。

柄308は柄尻付近の資料で、長軸方向の削り面で断面円形状に整形し、端部を太く作り出している。削片7572はヒノキ材で、薄板状である。

蓋3071は、周縁を荒い削り面で不整な円形状に整形する。上下面とも削り面のままとしている。スギ材か。径13cmほどの大きさで不整な円形状のものである。

糸巻部材423は、片面を削り面のまま残し、加工を行う。中央部の切れきは両側を削り込みながら切り欠いている。中央部に回転による穿孔1箇所。両端部を断面円形状に整形する。

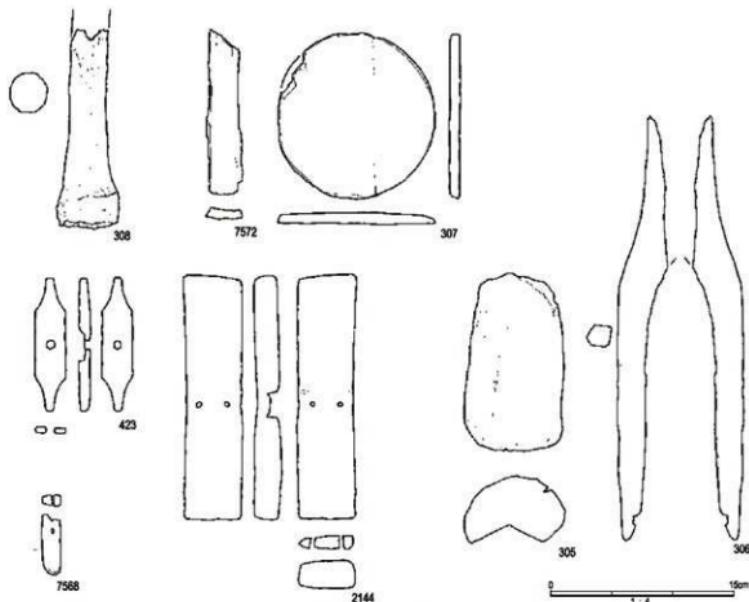


図63 包含層 5層・6層出土木製品

飾り板7568には表裏面があり、裏面は平坦なまま残置す。表面は端部を丸く整形して中央部と思われる位置に細孔を穿ち、裏面を下に目釘で固定するような形状となる。

組合せ部材2144は、中央部に鋸による切り込みを利用した切欠きを行い、2孔を穿つ。切欠き部と対応する裏面に帯状の圧痕がかすかに残り、切欠き部に合わせて挟み込むようにして組み合わせた痕跡かと考えられる。

6層・11層出土木製品（図63・64、表12・13）

6層（11層）は調査区北半谷部に分布する層で、黒褐色粘土を主とした層である。上位の5層とは不整合の関係にある。木器ほかとして6層出土資料2点（図63-305・306）、11層出土資料8点（図64）を示す。

横槌305は、頭部のみの資料で、片側は大きく亀裂を生じる。端面は平滑になる。横槌2328（図64）は長軸方向幅広の削り面により整形し、柄尻を太く作り出す

又鍼306は、片側刃部のみの資料である。刃部先端部は片側からの磨滅面で丸みを帯びている。鍼2081（図64）は腐触のため外形がかろうじて判別できるのみである。柄孔より外側の部位か。

木鱗3422は完形で出土したが、乾燥収縮し変形している。

籠状の木器2356は板状で、長軸方向の幅広の削り面により稜線を持った籠状に整形する。端部の片面縁部近くに磨滅面を生じている。端部は潰状。半ばは折れて消失する。

堅杵2297は長軸方向の幅広の削り面で整形する。断面は梢円形状となる。小形の器形であるが、中央に握り部、両端面は平滑でわずかに球面となり撫面と見える。

扉板（把手）2267 把手部の断片資料である。スギ材で、突起部を削り込んで断面半円形の握り部とし

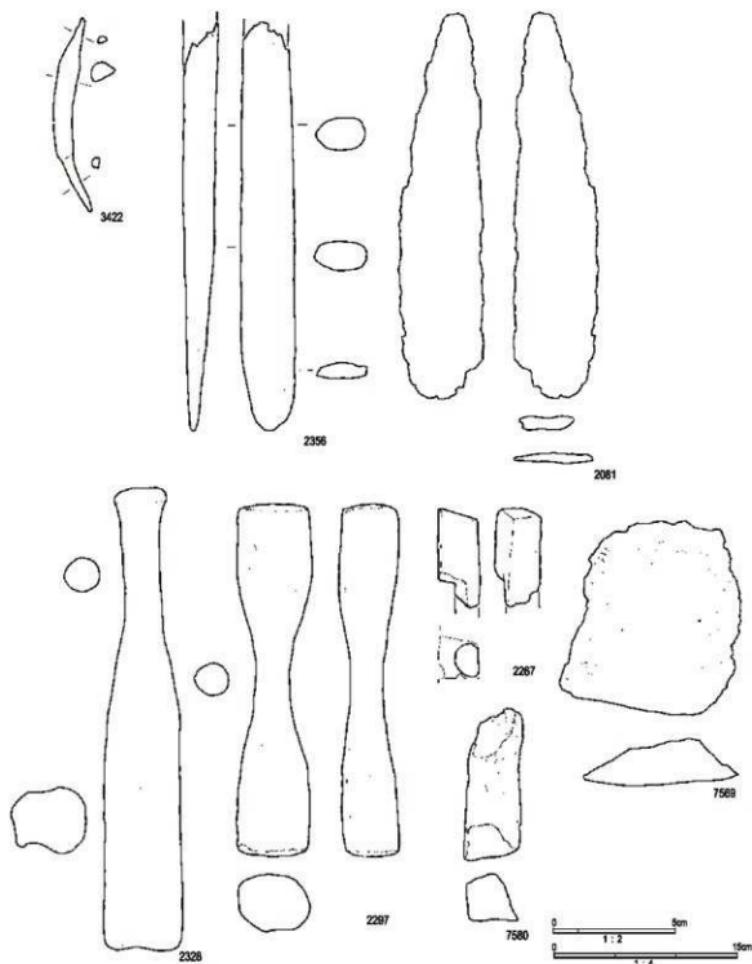


図64 包含層 11層出土木製品

ている。基部で本体から分離したもの。

11層及び下位の12層からは大形の削片、切断材の出土が目立つ。削片7569は島状の高まりを割り取ったものか。切断材7580は角材状の削材を切断したものか。

12層出土木製品（図65・66、表13・14）

12層は、11層と同じく調査区北半の谷部に分布する。木器は調査区中央部に集中するほか北辺部に

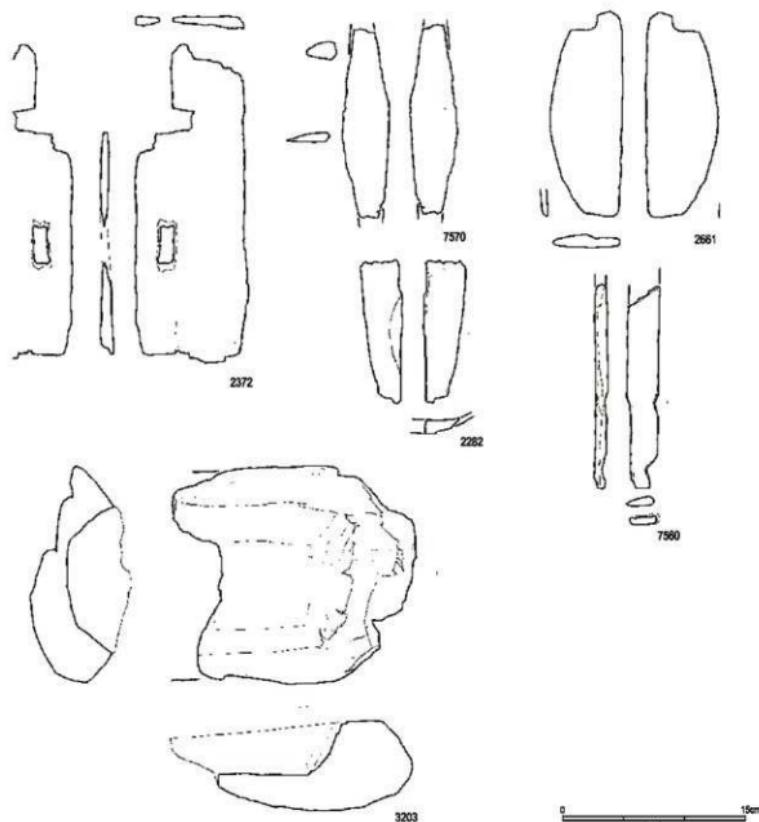


図65 包含層 12層出土木製品(1)

分布する。

穿孔のある板状部材2372は長側辺に沿う位置に穿孔する。孔は長方形で、外方の縁はやや丸みを帯びている。

包丁形の木器とする7570は、柄の作出と片側への刃付けが行われていることから分類したが、刃部側とは逆の背側が突出している。

鉗2661とするのは、2辺が原状を保っているようで叉鉗の可能性をかんがえられるが、一方全く別なる器形である可能性も残る。容器2282は、ベタ底の高台がつく皿である。高台部と体部との関係から平面形が橢円形あるいは長方形の皿を復原できる。刻みのある板材7560は山形の切れ口を複数もうけ、片側の一部は刃縁のように鋭く整形している。槽3203の破断部は焼けて炭化している。

鳥形木製品2648とする資料は、全体を長軸方向の削り面で整形する。半ばは断面円形、残りは偏平な

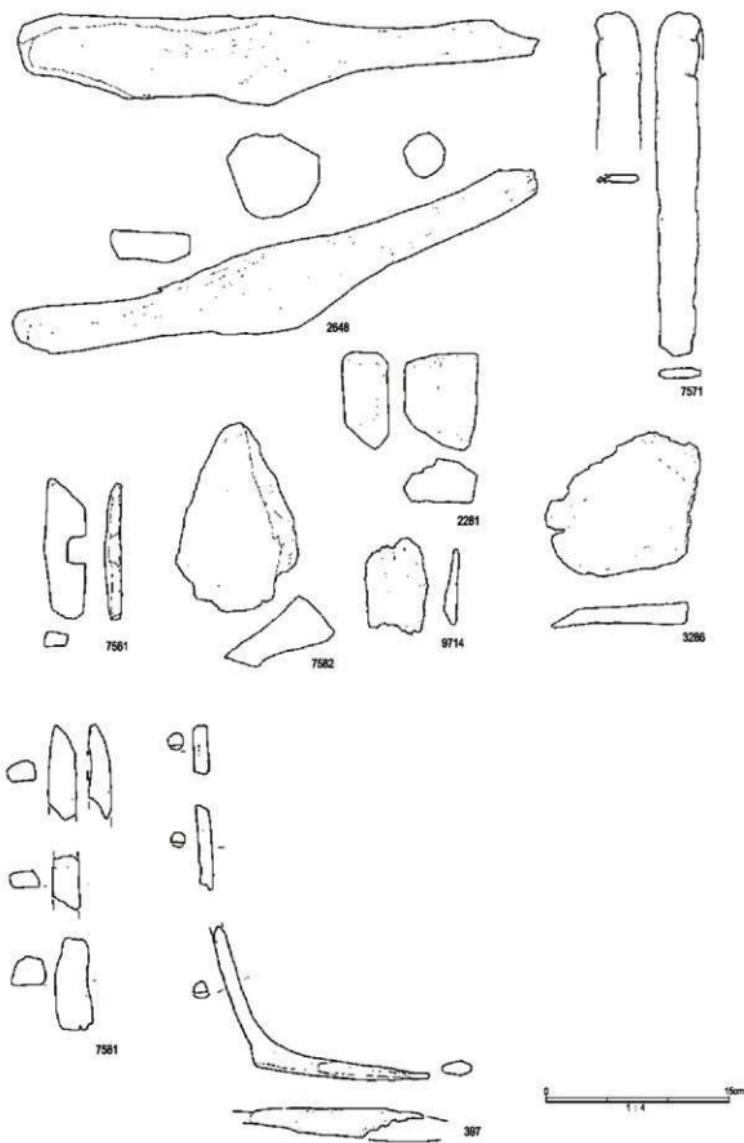


圖66 包含層 12層出土小製品(2)

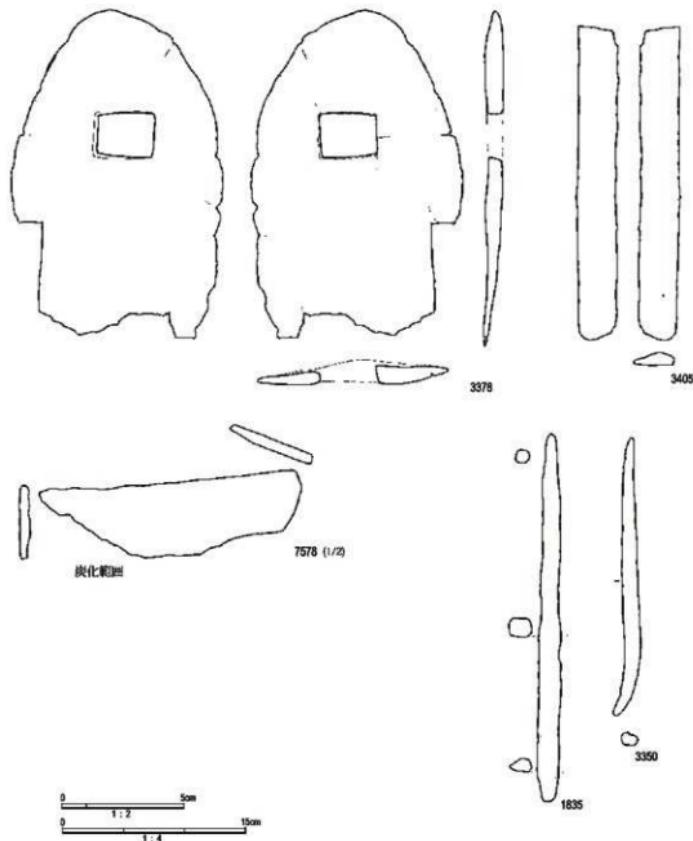


図67 包含層 13層出土木製品

板状となる。頭部相当部はわずかに膨らむ。装着のための加工等は観察できない。

穿孔のある板材7571は端部の片側に寄って2孔、切り込みを入れて穿孔する。板状部材7561は、穿孔部を含む半ばを欠く。2281は切断材、3286・9714は削片である。尖端部をもつ木器7581は、細片化して接合しない。小形柄状の木器397は、本体の先端部が焼損しており、原形不明である。

13層出土木製品（図65・66、表14）

13層は砂の薄層をはさみ、主として調査区南半に分布する。木製品はいずれも調査区中央付近から出土した。

3378は縁とするが、周縁部の整形は観察不能、頭部は他例とは異なり幅広の山形となる。

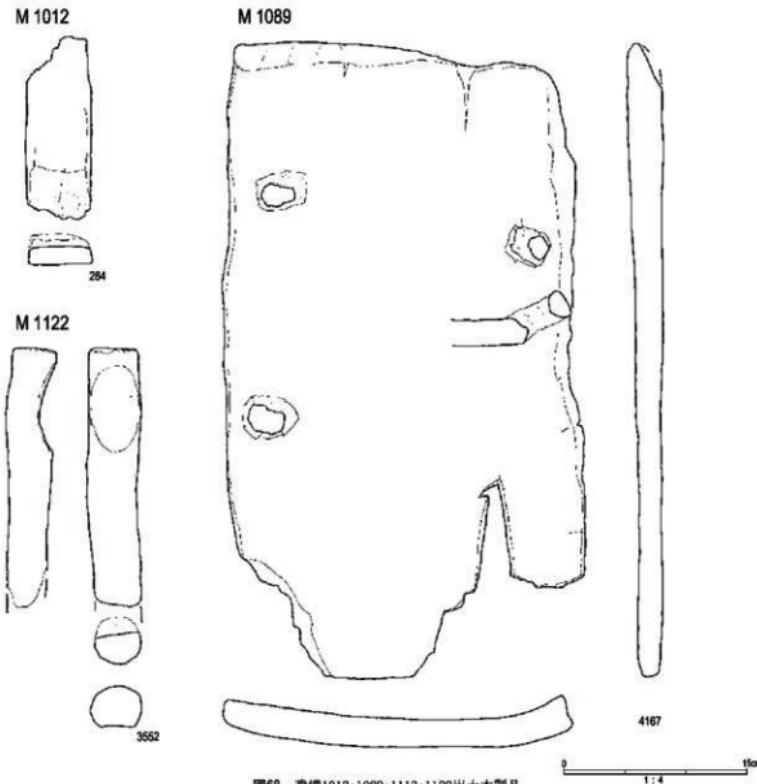


図68 遺構1012・1089・1113・1122出土木製品

板状の加工材3405は、おそらくヒノキ材で、長軸方向の幅広の削り面で整形し、木筒状を呈す。炭化部のある板材7578は断片であるが、薄く、片面に炭化部が環状に残っている。蓋か。
箒1835は尖端を欠く。3350は収縮変形が著しい。

2. 谷部遺構出土木製品

溝1012出土木製品（図68、表15）

切欠きのある浅状部材284は、細い板状の片面を削って段を作り出す。

流路1044出土木製品（図55、表9）

堅杵3408は、片側と基部を欠く。搗部端縁には丸みを生じ、器表全体が平滑である。

流路1089出土木製品（図68、表15）

穿孔のある板状部材4167は、縦に据えたような状態で出土したものである。長方形の板材で、一端を欠く。長側辺側の一方に1箇所、他方に2箇所の穿孔があるが、本来対になって4孔であったように復

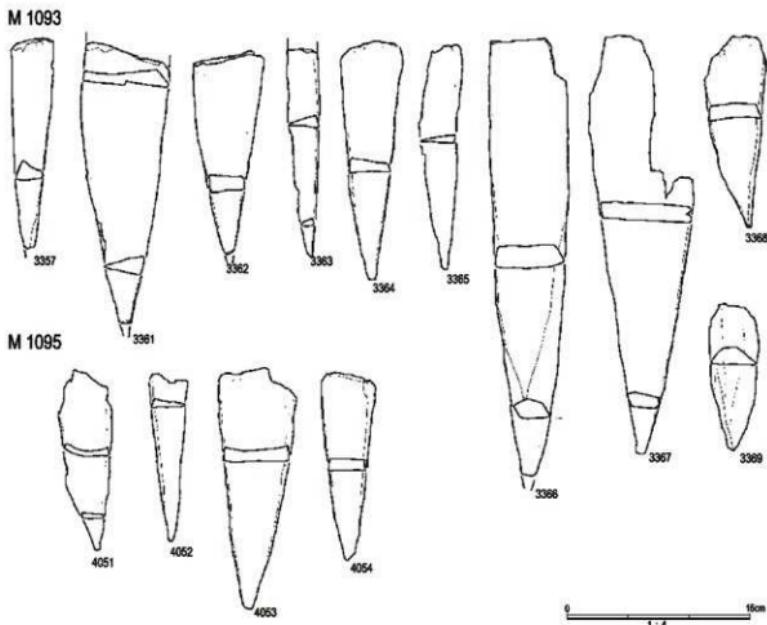


図69 矢板列 1093・1095山上木製品

原できる。穿孔は、平刃の工具で周回方向に斜めに削り込むようにして行ったように見え、孔の形状は不整である。遺存する片側端辺は面取りしたようになっている。

凹地1113出土木製品（図49、表15）

凹地1113は、谷部に位置し、水流による穿掘部と考えられる。槽3484は流路の粘土層に埋まるような状態で出土した。一方の端部を欠き、土圧によるものか片方向にひしやげたように変形している。原形は長方形の箱形で、半割に近い材の芯部を底面に置いた木取りとなっている。

杭列1122出土木製品（図68、表15）

建築材3552 杭の間にかかるようにして出土したものである。樹皮を残したままの丸木端部を切断し、その近くを切り欠く。

矢板列1093・矢板列1095（図69、表15・16）

やや離れて平行した位置に設けられた各々2条から成る矢板列で、根入れ部が遺存するのみである。矢板は多くが先端部のみの遺存であり、小形に見える。しかし、試みに遺構1070の矢板と重ねてみると、形状がよく重なるものがあり、長さ50cmを超えるものがあった可能性もある。厚さは同部位では、全体として矢板列1093・1095例の方が薄い。

矢板列1093では、中央部が深く打ち込まれているがその位置の矢板で35cm、一方端の浅い位置では12cmの長さで遺存する。先端部は、多くが稜側縁を斜めに削り尖端を作出し、一部は、削り面が上下面に及んでいる。矢板列1095では矢板はさらに短い。尖端部作出は側辺を斜めに削る。

遺物 番号	遺物番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存【量・状態】	
								整形・調整	
溝427 18層(1) 【図R34】									
1347	427	G35-1032	18c層 木器 鋸	85	75	14		頭部破片	
			木材/カシ類/柾目材	頭部) 剣側邊は正面に面取りがあり、断面複数となる。					
1893	427	G26-0341	18層 木器 鋸〔又鋸〕	278	95	19	幅は頭部	頭部破片/腐蝕顯著、かろ うじて原形を留める	
			木材/カシ類か/柾目材	腐蝕により、外形以上の観察不能。					
2580	427	G26-9733	18層 木器 鋸〔又鋸〕	440	175	20	幅は刃部/厚さは上半部/片面の腐蝕顯著、 頭部/頭部幅95 他部は遺存良		
			木材/カシ類か/柾目材	頭部) 非常に長い。上端では短い単位の粗い削り面で整形。 側邊) 直立し、面取り不明瞭。 刃部) 両面からの付刃。厚い刃縁に整形					
溝427 18層(2) 【図35】									
1349	427	G35-1032	18c層 木器 鋸	152	54	11		頭部破片	
			横位置に豊いて、幅広のエ ブリのような形態か。	木材/不明	側面、後を面取りすることは鋸と同様。 柄孔と思われる穿孔部の位置が不自然で、鋸とするには疑問。				
1587	427	G26-0341	18層 木器 鋸〔平鋸〕	143	45	8		刃部細片	
			木材/カシ類か/柾目材か	片側の肩部を中心とした部位。 側邊に面取りらしい面がある以外は観察不能					
7610	427	G26-9733	18層 木器 鋸〔又鋸〕	170	20	15		刃部細片/乾燥やや収縮、 変形	
			やや疑問	木材/カシ類/柾目材	削り整形により、断面四辺形の刃部を削り出す。 先端部) 長靴方向からの割れがあり、使用によるものか。				
溝427 18層(3) 【図36】									
1417	427	G26-0152	18c層 木器 えぶり	134	328	16		長側縫部は、割れたよう に見える(加工か)	
			木材/カシ類か	短側邊) 薄く整形するように見える。(短辺側) 上下縫) 厚く、刃づけか削れ面か判断できないが斜めにそぎ 取ったような形状。					
3278	427	G26-9751	18層 木器 えぶり	145	285	16		ほぼ全形が遺存/腐蝕やや 進行	
			木材/カシ類/柾目材	細かな整形は不明。 えぶり(後面) 柄孔(油位方向にやすばまる)周囲を厚く残し、 下方、左右の三方へ薄く削って隆起部として整形。 えぶり前面は逆に削り始め、全体として断面が翼状を呈する形状 に整形。 刃部、左右、下辺部に両面から刃付を行なう。えぶり前面からの 刃付は急角度であり、結果として厚い刃縁となる。					
溝427 18層(4) 【図37】									
1393	427	G35-1023	18c層 木器 研磨(直柄)	748	28		径は中央部/柄孔 完形 は幅28/厚さ30以 上を想定		
			木材/カシ類/芯去り材	削り出し、研磨により整形。 器表に木目が浮いているのは、経年変化(風化等)か。 銀鏡の取り付け面は大(直角に近い)					
1571	427	G26-0345	18層 木器 研(彎刀)	465	76	13	梢断面(径円 形)30×23	表面剥落	
			肩がない側では、かすかに 板材(カシ類) 肩部の痕跡のような段があ り、鋸の転用か。					柄を接んで非対称の両側邊に刃部があり、略完存か。 非対称の刃付き小器。	
1579	427	G26-0332	18層 木器 柄(膝柄)	140	42	28	台部	台部下端と柄中央部欠	
			木材/不明 広葉樹	台部) 上端は角錐状に複数の斜めの削り面で構成、装着面相当部 には平坦面を削りだす。 柄尻) 枝を斜めに削ぎ落としたような状態。					

表1 溝427 18層出土木製品観察表

遺物 番号	遺物番号 出土位置	遺物種別 材質	長さ	幅/径	高さ/厚	計測値備考	遺存(状・状態)	
							幅形	誤差
溝427 18層(5)	[図38]							
1345	427 G26-0145	18層上 木器 横棒 部	330	45	40柄(不整な円形)	両端を欠く 径23		
		木材/広葉樹か(黒色で緻密な組織)/芯去り材	全体の形状は判別できるが、器表に亀裂の痕跡は全くとどめない。					
1353	427 G35-1031	18a層 木器 矢杵	423	38	(柄中央25)	柄端部欠		
		木材/樹種不明(黒色緻密な組織)	遺存不良で詳細は不明。全体をみると長軸方向に帯状の平坦面(比較的幅広)があり、削り痕が。頭部は切断面か。					
1383	427 G35-1025	18c層 木器 垂杵	373	34	柄中央径27	全面腐蝕し器表剥落		
		木材/樹種不明(黒色緻密な組織)	全体に長軸方向骨状の削り面で整形。継いだ巻き状部分がある。頭部側面は細かな凹面の集合となっているが、削り面で構成される部位もある。					
1503	427 G26-0242	18層下 木器 横棒 部	297	63	43 断面偏平な梢円	ほぼ完形 形形状、片側は 潰れた状態		
		木材/広葉樹(カシ類か)/芯去り材	全面に研磨が行われたものか、全体に平滑。器表は木目が薄く。本体端も平滑。柄端は面取り。 体部中央に3~4面凹面生成(使用痕とみられる)。					
1607	427 G26-0243	18層 木器 横棒	431	23	(径は体部)、柄 径17	柄尻を欠く/腐蝕の進行 が著しく、器表剥落、顯著な凹凸・亀裂を生じる。		
		木材/樹種不明(黒色緻密な組織)	断面長軸方向の比較的広い削り面が平行して、断面が多面体状となる部分がある。					
1608	427 G26-0244	18層 木器 横棒か	409	32	柄径18	ほぼ完形		
		木材/樹種不明(黒色緻密な組織)	長軸に沿う方向の帯状の削り面で整形。削り面は幅の変化が大きく不整。木材の性質によるものか。削りが一気に行なったものでなく、左右に工具を振らせながら削り進んだような痕跡。 断面) 体部: 円形、頭部: 棱円形、柄部: 角柱状(粗い削り面で構成される)					
2329	427 G20-9733	18層上 木器 垂杵 面	452	67	46 体部(梢円形) 柄(円形)径31	略全体が遺存/腐蝕著しく 進行、亀裂・収縮変形顕著		
		木材/(広葉樹か)/芯去り材	器表の遺存は不良で、調整痕は不明瞭。側面に長軸方向の平坦な面があり、これが削り痕か。 頭部端面: 平滑に整形。 柄部端面: 削り面のように見える。					
2330	427 G20-9733	18層上 木器 垂杵 面	351	31	26 断面は梢円形	裏柱頭部で変形、からりとして形状がわかる。		
		木材/(広葉樹(黒色緻密な組織)/芯去り材	遺存状況から、細部の観察不能。 本体から柄にかけては屈曲して、径は小さくなっている。頭部端、柄尻方向にも細くなっている。					
2955	427 G26-9955	18層 木器 横棒	467	55	柄は径33(不整な 円形)	先存/直存良		
		木材/カシ類/芯去り材	長軸に沿う削り面で整形 頭部: 端面は、削り面で平滑に整形、一部向凸が残る。 梢部: 梢部端部がやや膨らむ。柄端面は削り整形し、球状に継いだ凸面に整形する。 体部中間に広く浅い溝みが生成しており、これが使用痕か、周回方向に分布。					
7592	427 G26-0245	18層下 木器 横棒 面	188	31	径は径33(不整な 円形)	径は欠く/遺存良 径は23		
		木材/不明 広葉樹	長軸方向帯状の細かな削り面で整形後研磨を行ったものか。 柄と体部の境界部に擦線(累進線)か					

計測値は m/m

表2 溝427 18層出土木製品観察表

遺物 番号	遺構番号	出土位置 遺物特記	遺物種別 材質	長さ	幅/径	基高/厚	計測値備考 整形・調整	遺存【基・状態】
溝427 18層(6) [図39]								
427	G26-0345	18層	木器 器具部材か(切欠きのある半円形板状部材)	76	93	6		一部を欠く。
937			木材/広葉樹/柾目材					薄い板材の側縁を削り、長方形の切り込みを入れる。上下面) 広く浅い削り面で整形。側辺) 短い削り面(結縫形)を重ねて、整形(やや不整)。
1384	427	G26-1152	18c層 木器 柄	340	23	21		表面剥落か
			木材/広葉樹(黒色緻密な組織)					長軸をやや斜め方向の削り面で整形する。 断面) 多面体状。 先端部) 削り面で整形、断面楕円形。 基部) 両側から大きく削ぎ落とし、整体に薄くなる。 断面) 長方形状
1572	427	G26-0345	18層 木器 柄	432	11			ほぼ完形
			木材/広葉樹(黒色緻密な組織)					長軸方向の細かな削り面で整形。 基部) 片側が浅い角度で斜めに削ぎ取られ平らになっている。ごく細身。
2380	427	G26-0632	18層 木器 柄	308	20			ほぼ完形/表面剥落、細かな凹凸を生じる。
								長軸方向の細い削り面で整形。 断面) 粗い円形状。 先端部) 細かな削り面で、円錐状に整形。 基部) 片側からそぎ取ったような割れ面により薄くなり、鉛状を呈す。意図したものか否かは判別が難しい。(細部調整が加えられていない)
2410	427	G26-0544	18層 木器 柄	348	13			ほぼ完形/腐蝕し器剥落、各所に凹部。
			木材/広葉樹(黒色緻密な組織)					先端部、基部とも整体に薄く整形。 先端部) 片面を大きく削り、基部は両面からの広い削り面で整形。 断面) 偏平な楕円形、不整な四辺形の部分がある。体部中央は厚く楕円形
2460	427	G26-0544	18層 木器 矛	251	90	19 柄(不整な楕円形)23×18		基部と刃部の一部表面/腐蝕し進行、かろうじて原形を判断できる
			杓子状					木材/カシ類か/柾目材 板材からの削り出し。 側縁、肩縁部までが削けたものか。
2471	427	G26-0541	18層 木器 柄	489	17			先端部欠/腐蝕、表面剥落
			木材/不明 イスノキか/角材状の脂材か					全体に研磨を行なうものか。 基部) 対面する削り面によう、薄い四辺形。 体部) 中位の対向する位置に2列の切欠き、断面逆台形状となる。切欠きと斜く側面には全体の整形痕とは別に切欠きに対応する削り面あり。複数の凹痕が切欠きから体部に直交する方向に残る。
2638	427	G26-0531	18層 木器 把手部材か	389	59	29 幅の状れ部は40 完存/器表は木目が浮く		
			把手のように見えるが、端 木材/スギ/部は組み合わさる形状ではない。					角材状の割材の木口を削ぎ落とし、側辺片面に抉り込み。
7567	427	G35-1041	18b層 木器 尖頭器〔フグシ〕	215	32	15		完形/器表剥落し、収縮
			木材/広葉樹(黒色緻密な組織)/割材、樹皮付近					加工の痕跡は不明瞭だが箇状の尖頭部がある。使用による磨滅かもしれない。
9441	427	G26-0544	18層 木器 柄	249	18			基部を欠く./腐蝕進行し、器表剥落
			欠損は切断によるものか。 木材/広葉樹(黒色緻密な組織) 9441と接して出土したが、組み合わさるものではなく、別の道具と見える(形状が全く別)。					先端部近くに括れを作り出し、先端部には長軸方向に広い削り面が残る。 先端部) 片側に広い平坦面が残り、断面カマボコ状 体部) 多面体状とみえる。断面は楕円形

表3 溝427 18層出土木製品觀察表

遺物 番号	遺構番号	出土位置	遺物種類 材質	長さ	幅/径	基高/厚	計測値備考 整形・調整	遺存〔策・状態〕
溝427 18層(7) [図40]								
1385	427 G35-1023	18c層	木器 薄状木器〔縫孔をもつ半円形状器具〕	91	118	11		木目が浮き出る
孔の対抗する位置がやや薄 木材/スギか/柾目材〔板〕 上下面の調整は観察できない。 誠しており、純ずれか。								
2637	427 G26-0531	18層	木器 扉板	1533	320	26		把手部を欠く(出土時は略 完存)/裏面進行
木材/カシ類か/柾目材 上・下面削面と思われるが、詳細不詳。 か 把手は削り出し、2カ所に穿孔。長方形孔。1孔、2孔がある。								
7613	427 G26-9733	18層	木材 杭〔丸木杭〕	293	28		断面は不整な円	先端部、頭部の一部を欠 く/遺存良
充存資料であり、一般的な 木材/〔広葉樹か〕/丸木 先端部)斜め方向に複数方向からそぎ取り、尖頭部作成(多面形 杭)であるのかいかなか疑問。								
9444	427 G26-0341	18層	木器 棒状の加工品	413	42			ほぼ完存/器表やや荒れ、 部分的に収縮
丸木の一端を削いで断面台 木材/広葉樹か/芯持ち材 丸木の一端を斜めに削ぎ取る。角度は浅く、3面を削り、他は木 形状に整形。他端は切断 か。								
溝427 19層 [図41]								
1342	427 G26-0145	19層下 部	木器 足付盤	385	48		円形の盤と考え 小破片、足部を含む。	
木材/カシ類/横木取り (板目材か) 荒い削り面が残る。 脚)数は推測できない。螺旋状の細かな削り面で整形されている								
1378	427 G26-0153	19層	木器 斧杵	414	85	70	厚さ頭部近く/柄	ほぼ完存/片側の面は收 括(断面複円 形)32×26
木材/カシ類か/芯材か 長軸方向棒状の削り面により整形。 把手部) 平滑で丸みをおびる。 先端部) 平滑な平面となり光沢を有す。 把手端) 周囲からの削り面で球状に整形。								
2640	427 G26-0541	22層	木器 鋸〔狭鋸〕	512	95	19		片側1/3を欠く/筋跡留 で、かろうじて形状を留 める
木材/カシ類か/柾目材 身が長く、側邊の刃付けはみられない。 刃先は狭く薄い。 刃縁の整形をしているかは判らないが、全体として刃に向かい薄 くなる。								
溝427 22層(1) [図42]								
1755	427 G26-0344	22層	木器 鋸〔三叉鋸〕	279	99	14		頭部
木材/カシ類/柾目材 痕跡のため複数はほとんどできない。 側面は直立する削り面で構成。 刃部は両面からの刃づけが行なわれる。								
2439	427 G26-0623	22層	木器 鋸〔又鋸〕	389	54	22	刀部 幅25厚さ17 片側1/3の破片、頭部を欠 く/器表は風化した様な状 態。植物根痕跡頗著	
二叉か三叉かは 判然とし ない 木材/樹種不明/おそらく 柾目材 側面に明瞭な面(削り面)を残し、秘前を面取り。 器表の変化が、他例とやや異なる。やや風化気味か。								
2605	427 G26-0542	22層	木器 鋸〔平鋸〕	244	136	15		刃部の大半と頭部の半 ば欠/遺存良
板状 木材/カシ類 刃部に段を削り出すが、粗削り面で大きめ剥がした後に、大きな 整形を行なっていないような表面状態(鐵錐の凹凸が見える) 側面も後部にやや面取り様の丸みがみえるのみ。								

表4 溝427 18層・19層・22層出土木製品観察表

計測値は mm

遺物 番号	遺物番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	高さ/厚	計測値備考	遺存（量・状態）	
7605	427	G26-0346	22層	木器 鋼〔平鋸〕	87	130	7	体上部の細片/腐蝕顯著に進行し、收縮、変形	
			木材/カシ	薄手 側縁部、丸みを帯びた断面形					
満427 22層(2) 【図43】	427	G26-0342	22層	木器 平鋸	300	152	18	ほぼ完形/腐蝕著しく進行、收縮変形を生じる。	
	1744			木材/カシ類か/柾目材	身の中位に低い段を作出。側面との縫合部の角部は広く面取りし、前面側は角のまととする。				
1778	427	G26-0241	22層	木器 平鋸	280	152	13	頭部の一部欠/腐蝕顯著	
			木材/カシ類か	片側の肩部から刃部にかけて、かろうじて原状を留めるほかは腐蝕のため表面が残らない。					
満427 22層(3) 【図44】	2596	427	G26-9642	22層	木器 鋼〔平鋸〕	324	187	19	刃部を欠く/遺存良
			木材/カシ類/柾目材	側縁部に面取り。身部の鋸後面に段削り出し。下部の縫合部は、擦れて取れて曲面を成している(腐蝕か、研磨かは不明)。					
	2599	427	G26-9632	22層	木器 鋼〔平鋸〕	305	188	13 身(刃部)の 底 刃部の ごく一部欠/遺存下では 厚さ5 良	
			木材/カシ類か /柾目材	長軸、幅方向とともに、緩い曲面となる。長軸方向には、そのような形状に削り出されたものか。					
				側縁 削り面で構成され、各縫合部は面取り。上・下面 短く不整な削り調整が行われる。削り面は広く浅い。条縁等は観察されない。刃部中央横断方向に段を削り出す。					
				身部中央以下の側縁は丸く滑らかで、使用によるものか、調整かは不明。					
満427 22層(4) 【図45】	427	G26-0152	22層	木器 柄〔膝柄〕	494			頭部(長さ1379/ 完存 梢(径)25/台部 径28/柄部径21)	
1649			未成品	木材/不明				枝部を利用し、幹の両端、枝先端部を削断(平面の切断面)。それ以外の輪形は確認できない(餘もそのまま残置)。	
	2602	427	G26-9643	22層	木器 梢柄〔膝柄〕	600	22	柄の径22/台部長 台部の先端欠/遺存長さ90/ 幅38/厚さ22	
			木材/ (広葉樹)	台部) 頭部は、柄付け根の位置より突出せず、梢から丸みを持つて台部へ続く。 台部) 直方体状。 柄) 樹皮は搔き取り、節と節も平坦に整形。要部は整形したものか、部分的に長軸方向の削り面。柄尻は、軸に直交する平面となるが、複数の削り面により整形。					
満427 22層(5) 【図46】	1478	427	G35-1945	22層	木器 柄か	849	31	梢円形状	前端の一部欠
			木材/不明 広葉樹か/芯持ち材	両端の片側にそれぞれ浅い切れ目がある。切れ目周囲は長軸方向方向の細い削り面で整形。全体に樹皮は残らず節目も残さない。搔き取りなどで全面削を行ったものか。					
1604	427	G26-0344	22層	木器 斧柄〔膝柄〕	504	19	輪長×径(柄)	台部の両端を一部欠く 台部 長さ75幅24	
			木材/ (広葉樹)	台部) 侧面楔形、平面側は筋縫隙、断面矩形に整形。平坦な大きな削り面で構成。 柄) 細く直線状、部分的に樹皮が残る。柄尻は複数の削り面により丸みをもつ。					

表5 満427 22層出土木製品検査表

計測値は mm

遺物 番号	遺物番号 出土位置 遺物付記	遺物種類 材質	長さ	幅/径	基高/厚	計測値備考 整形・調整	遺存〔量・状態〕	
							台部	下半割れて欠く/遺存良 35 厚さ37
3046	427 G26-9835 22層	木器 柄か〔膝柄〕	1069	30				
		柄とすれば膝柄であるが、木材/〔広葉樹〕 装着状況を想定できない。 別の建築部材といったもの の可能性。				柄) 剥皮を残し、梢尻部を周囲から削り、舟錨状に彫くする。 台部) 鞭方向の削り面により、断面が円形に近い形状に整形。 基部以上部への突出はなく側面L字状となる。柄部との形状、甚 の差なく、やや細く先端りか。下半部はねじれ割れ、下端面には 切断痕が残る。		
7590	427 G26-0245 22層	木器 柄	614	29			長さは現存部の一部を欠く/片側が収縮、 軸長。径は梢円 变形 形29×19	
		柄とするが、着柄の状況を 木材/広葉樹/芯去り材 想定できない。				材木(角材状) から削り出し。木 端部に軸方向帯状の削り面が残るほかは平滑で整形の状況は不 明。研磨を加えているものか。 前端部とする部位には舌状に膨隆部を作成。中央には柄と一致す る位置に突起がある。 台部の正面形は多面体状(亀甲状)であるが、原形を留めるものか よく判らない。 梢尻とする方向に向かっては反りながら細くなる。		
溝427 22層(6) [図47]								
1395	427 G35-1015 22層	木器 箕	311	13			先端部欠/基部は乾燥收 縮か	
		木材/〔広葉樹、黒色軟密 な組織〕 黒色、硬質)				中央部、先端部では、長軸方向に細かな削り面が残り、中央部で は断面円形、先端部では舟形に整形。 基部 削ぎ落とすように削面が残るが、破損か否かは判別でき ない。乾燥変形。 先端部 端部を欠損するが残る部分が黒化し硬い。あるいは加熱 し硬化させていたものか。		
1457	427 G35-1031 22層	木器 箕	147	15			先端部/器表は良く保存さ れ、調整痕明瞭	
		木材/〔黒褐色、硬質〕 樹種不明イヌノキか				長軸方向の細い削り面により整形し、体部の断面は梢円形状。 先端部 更に細かな削り面で円錐形に整形、断面は梢円形状。		
1609	427 G26-0154 22層	木器 斧柄〔膝柄〕	151	40	29 (台部)/柄は112	台部の資料、柄の大部分 を欠く		
		木材/カシ類か				台部) 鋸前面に2段の浅い段がある。これが装着痕しくはその ための加工。上位の段は側面におよぶ。袋状の鉄斧の装着が復原 できるが、この場合袋部の内法は幅25mm前後。高さは20mm前後と なる。装着の深さは上位の段を前垂とすると、50mm程。		
1618	427 G26-0152 22層	木器 柄か	180	67	42		一部の被片、全体形を 判断し難い/器表腐蝕の ため剥落	
		木材/不明 広葉樹				斧柄とすると、台部のみの資料。 台部前面に凹部を削り出し、対応する后面に切欠き。		
1699	427 G26-0244 22層	木器 弓	489	22	17	断面は梢円形 破片、半ばを欠く		
		木材/広葉樹〔黒色緻密な 組織〕				長軸方向に平行する細かな削り面で整形、2カ所で刻み込んで段 を作成(端部と中央部に相当か)。 体部の断面は梢円形、端部の段を弓矢とすれば弓。但し、凸状 となっている。 現状では両端を浅い角度で対向する方向に斜断している。意図的 なもののか不明。切断面は非常にきれい。端部側のそれは、明ら かに複数回加熱を行なっている。		
2700	427 G26-0631 24層	木器 斧〔堅竹〕	413	75	73	断面は不整な円 一部を欠く/遺存良 形/柄(不整な 円形)		
		木材/樹種不明/芯持ち材				本体部) 部分的に残る長軸方向の細い削り面により整形したもの と見えるが、さらに研磨が加剤ったか、使用によったか、平滑化 する部分もある。 柄) 本体部と同様の経過と見える。 鉗面) 半球状となり、平滑で光沢をもっている。おそらく使用に よるものと見える。		

計測値は n/n

表6 溝427 22層出土木製品観察表

遺物 番号	遺物番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	高さ/厚	計測値備考	遺存【量・状態】
								断形・調整
2966	427	G26-9834	22層	木器 横棒	370	34	柄径20	頭部欠/亀裂を生じるが遺存良
			木材/広葉樹か					長軸方向の比較的幅広の削り面で整形。 各面の成す稜は丸みをもち、使用による経年変化のほか、ある程度の研磨も可能性がある。 使用による凹面等の生成は見られない。
3133	427	G26-0441	22層	木器 柄(斧柄)	260	32	台部 長さ129 幅 60 厚さ40	完存/器表はやや荒れて、黒化、植物根巻き細孔が分布。
			腰柄。錐斧柄未完成か若し くは、槌等といった別機能 を想定できる。	木材/カシ類か				台部 中央が膨らんだ直方体状で、各面は平滑に整形されている。下端部の各辺の棱は明瞭。他の辺は面取りが行なわれる。頭部はやや丸みをもたせている。各面は平滑。 柄 端部は周囲から斜めに粗く削り、多面体状となる。この状態だと非常に短い柄となる(片手で持つような状態)。
7591	427	G35-1031	22層	木器 鋸状	214	25	17 柄部の径は19	先端部を欠く/遺存良
			石しくは、組み合せの柄	木材/広葉樹か(緻密で暗赤褐色)/芯去り材				長軸方向の細かな削り面で整形。体部の断面は円形状(多面体)頭部はやや球面状に削り面で整形。 刃部は裏表側からぞぎ取り、平刃を作出するものか(刃縁部を欠くのは、折れか)。
9709	427	G35-1041	22層	木器 箔	118	14		先端部/底熱、器表剥落
			木材/樹種不明(広葉樹)	器表剥落して不明。一部に長軸方向の削り痕ともみえる部分があ か、黒色緻密な組織)/芯				るが不明瞭。
			持ち付					

溝427 22層(7) 【図48】

1346	427	木器 柄(錐柄未完成)	417	76	58 厚さ58は下半部/頭部、柄が部分的に壊 れ(計)965	下部	先端部/底熱、器表剥落
柄とするが穂のようなもの 木材/ 広葉樹(樹皮遺存) 台部の全体は両側から削って広い平坦面をなす。 かもしだれない。台部下端面 の状態が悪く、観察できな い。							

溝427 22層(8) 【図49】

1684	427	G26-0243	22層	木器 容器【楕】	140	111	25	底部断片
丸底				木材/樹種不明/横木取 り、 板目材か				木材から半球形に削り出し。 外面 荒い削りで整形。 内面 丸整状の工具痕らしきものが残る。
1740	427	G26-0151	22層	木器 容器【楕】	148	17		径辺の漆が残る 縫部の大部分を失く 位置間の距離は170
				木材/樹種不明/横木取り				板状の木材からの削りだし。内面に嵌合部の段を削り出した痕跡。 外面 黒漆喰。稜、外縁及び中心に赤漆。 内面 黒色の顔料様のものが全面に塗られている。
3216	427	G26-9734	22層	木器 内子	215	172	81	縫合化、ほぼ完形。
未完成				木材/針葉樹か				未完成。半裁した木材の半端面を上面として輪形を木取り。本体 と柄部の概形を削りだした段階。

溝427 22層(9) 【図50】

1470	427	G35-1031	22層	木器 内子	249	25		柄部/遺存良
				木材/広葉樹(カシ類か)/ 原板材からの削り出し				軸に沿う輪幅の削り面による輪形。 柄尻 平坦な削り面となっている。縫を面取りか。
1505	427	G26-0242	22層上	木器 木盤	55	14	3 幅は体部中央	全形が遺存/輪歛が著し く、器表は遺存しない。
			面	木材/樹種不明(黒色緻密 な組織)/芯去り材				一見すると、浮子の様な形 断面は円形状、先端部の側面観、テーパー状となることは、木盤 状だが、材は硬質、重い。 長さに比して、体部の径が大、茎がごく細く長い。

針葉樹は n/a

遺物 番号	遺物番号 遺物特記	出土位置	遺物種類 材質	長さ 幅/径 高さ/深 計測値備考				遺存〔量・状態〕
				幅	高さ	深	計測値備考 壁厚・誤差	
1617	427 G26-0152	22層	木器 周縁に穿孔する板 状部材	112	69	4	周縁の一部を欠く	
			木材 / 広葉樹か / 横木	板材の周縁に沿って等間隔に、径2mm程度の孔を穿孔する。一部では、2列となる。穿孔は、浅状で3邊に残り、もともとは台形状を呈するものであったとみえる。				
				取り。ごく薄い板状。			穿孔は、細径の円形で、回転によるものか。	
2474	427 G26-0442	22層	木器 有孔板状の木器 四角形板状、部材か	445	135	13	一部を欠く/遺存良	
			木材 / 広葉樹	表裏面、広く平坦な削り面が残る(亀甲状の平滑な削り底)。 長側辺は面取り。短辺は薄く削る。				
				穿孔) 一方は両側から、他方は片側から割り抜いて不整な穿孔があり、紙ずれ様の丸みが生じている。				
7586	427 G26-0344	22層	木器 削片	147	61	11	保存良好	
			木材 / 針葉樹か	一端に切断痕、片面は削れ面、削り面側(平坦)に崩状痕。工具痕か。直線で継ぐ不規則に分布。工作台としての利用があつたものの断片か。				
7588	427 G26-0344	22層	木器 建築部材 木材 / 針葉樹(マツか) / 枝目材	286	35	18	端部/器表風化か、木目が浮く	
				木材の便面を丸く整形したものか。木目が浮いている(風化によるもの)				
遺構1054 [図51]								
1871	1054	木器 横樋	356	74	径は頭部中央、ほぼ半形/片面が著しく荒れ(山上時か)			
		木材 / 広葉樹(カシ類か) / 芽去り材	全体に長軸方向の削り面で整形されているようであるが、頭部はやや粗い。					
1873	1054	木器 横	339	95	45	上部の大部分を欠き横片化/器表の遺存良		
		木材 / 広葉樹か / 芽去り材	外表面舟状に整形。 外表面とも研磨を加えているものか、平滑で光沢をもつ。片側には把手を作り出す。 外表面) 上半部は長軸方向で幅広の削り面で構成される。下半部は平滑で全体に丸み。					
1874	1054	木器 横木板 [叩き板 か]	349	50	15 横断面(横円 形) 27×22	柄端部欠/器表の遺存良		
		木材 / 広葉樹(カシ類か) / 斜日材	器表に広く浅い削り面が残るようにも見えるが、判然としない。 柄) 斜面横円形で器表平滑。研磨によるものか。					
1875	1054	木器 横棒 (横枠) 木材 / 樹種不明	318	85	径は頭部、基部 頭部のみの資料(柄は基部 は径48	頭部欠/基部 で脱落) / 遺存良		
				径の全体が渦巻形となるよう整形する。 器表は磨いたもののか、平滑。 拘面は軸に対して直立って傾く。その向きから推測して腰よりかなり下の位置のものに対して作業したものか。擦れて光沢をもつ				
9710	1054	木器 装具柄か (腰柄)	513	29	台部 長さ182幅 40厚さ30	柄尻部を欠く/遺存良		
		柄か単体の道具かは判然と しない。	木材 / 広葉樹/枝を残した 樹幹	台部) 柄の径に合わせて両側面を平滑な削り面で整形。全体に先端部に向かい先細りとなり、盤状を呈す。尖頭部をもつものか。 柄) 特別な整形を行っていない。窓口状の形態。				
土壙1061 [図53]								
2408	1061	矢板 削材				両端欠/收縮変形		
		木材 / カシ類/柾目材	みかん削り材 頭部に切断面が残る。					
2409	1061	矢板				端部欠/全体に收縮、変形		
		木材 / カシ類/柾目材	薄板状の木材の一端の両側面を斜めに削ぎ落し、尖頭部作成。					

計測値/2 mm

遺物 番号	遺物番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	高さ/厚	計測値備考	遺存【基・状態】
土壌1062 [図55]								
2507	1062		矢板	1293	91	25		ほぼ完存
			木材/カシ類				みかん割り材の幅広で薄い側の端部両側縁を斜めに削ぎ落し、尖端部作出。	
2508	1062		木材 板状(剖材)	960	104	20		一部欠/乾燥収縮、変形
			木材/カシ類				頭部は、削れ面ないし切断面。 剖材2509と大きさが近似する。あるいは同一工程で削りとられたものか。	
2509	1062		木材 板状(剖材)	990	131	21		中间部欠
			木材/カシ類か				上面面、側面とも削れ面。 端面は切断面(平滑)。	
3408	1044		木器 壓件	368	81			柄部欠/腐蝕著しく進行
不明確			木材/広葉樹(カシ類か)/ 芯持ち材				全体に平滑で、研磨の可能性もある。 握部端縁には丸み。	
遺構1070 [図57]								
3241	1070		矢板	168	52	31		先端部
			木材/カシ類/みかん割り 材				みかん割り材の縁部を削り調整し、先端部に整形。	
3242	1070		矢板	248	51	32		両端欠
			木材/カシ類/みかん剖材				一部に削り面を残し二方に削り、整形を加えて尖端部作出。	
3243	1070		矢板	297	57	35		頭部欠
先端部潰状			木材/カシ類/剖材				片面を残し四隅を削って整形、先端部を作出。	
3244	1070		矢板	405	85	45		頭部欠
			木材/カシ類/みかん割り 材				みかん割り材の先端部部分を利用し、穂部を削って整形し先端部形成。	
3245	1070		矢板	514	75	28		先端部欠
			木材/カシ類/板材				板材の両側辺を削り、整形して尖端部を作出。	
3246	1070		矢板	508	98	35		頭部潰状
			木材/カシ類/みかん割り 材				木材/カシ類/みかん割り材の両側縁面に削り整形、先端部を作出。	
3247	1070		矢板	793	101	43		
			木材/カシ類/みかん割り 材				木材/カシ類/みかん割り材の穂部を削り尖端部作出。	
3253	1070		矢板	655	107	50		先端部欠。頭部乾燥、や や収縮
頭部潰状			木材/カシ類/みかん割り 材				木材/カシ類/みかん割り 片方の端部の全周を削って整形を行い、尖端部作出。	
3254	1070		矢板	575	73	37		
頭部潰状か 材			木材/カシ類/みかん割り 材				木材/カシ類/みかん割り	
3255	1070		矢板	512	83	30		頭部欠
先端部潰状			木材/カシ類/みかん割り 材				木材/カシ類/みかん割り材の一端の全周を削って整形を行い尖端部作出。	
3256	1070		矢板	312	82	27		両端欠
			木材/カシ類/みかん割り 材				木材/カシ類/みかん割り	
3259	1070		矢板	544	91	61		先端部欠
頭部潰状			木材/カシ類/みかん割り 材				木材/カシ類/みかん割り材の細くなった端部の両側を削り尖端部作出。	
3260	1070		矢板	729	99	24		
頭部潰状			木材/カシ類/みかん割り 材				木材/カシ類/みかん割り材端部両面に削って整形し、尖端部作出。	

表 9 遺構1062・遺構1070出土木製品観察表

計測値は a/a

遺物 番号	遺物番号 出土位置 遺物特記	遺物種別 材質	長さ	幅/径	高さ/深	計測値備考 彫形・調整	遺存【量・状態】	
							計測値備考 彫形・調整	
3261	1070 頭部横状	矢板 木材/カシ類/みかん割り材	506	67	57			
3262	1070 頭部横状	杭 角杭 木材/カシ類/削材	324	51	46			
3272	1070 頭部横状	矢板 木材/カシ類/みかん割り材	494	90	38		両端欠、頭部は大きくな失。	
3273	1070 頭部横状	矢板 木材/カシ類/みかん割り材	729	99	24		接合部破損(調査時)	
3274	1070 頭部横状	矢板 木材/カシ類/みかん割り材の1個線を削り調整し、尖端を作出。	572	84	54		両端欠。頭部は乾燥収縮、変形。	
3275	1070 頭部横状	木材 板材(みかん割り材) 木材/カシ類	754	168	23		みかん割り材を利用し、片面の一部を削り整形するものか。	
遺構1071 (1) [図59]								
2516	1071	木材 削材/みかん削材 木材/カシ類	1153	52	15	長さは、2破片の両端、中央部欠合計		
2518	1071	木材 削材/みかん削材 木材/カシ類	1382	60	31		端部腐食	
2642	1071	木材 削材/みかん削材 木材/カシ類	1483	71	40		中间部わずかに欠	
2644	1071	木材 削材/みかん削材 木材/カシ類	1249	40	31	長さは2部分の上端部・中央部欠合計値		
2645	1071	木材 削材/みかん削材 木材/カシ類	1293	75	22		両端、中间部欠	
2647	1071	木材 削材/みかん削材 木材/カシ類	1661	55	28		ほぼ完存	
4326	1071	木材 削材/みかん削材 木材/カシ類	1204	114	34		両端腐食(一端は割れか)	
9702	1071	木材 削材(角柱状) 木材/カシ類	1072	45	28		端部僅かに欠	
遺構1071 (2) [図60]								
2611	1071	木材 削材/みかん削材 木材/カシ類	1039	78	31		端部欠	
2612	1071	木材 削材/みかん削材 木材/カシ類	1024	65	24		両端欠	
2613	1071	木材 削材/みかん削材 木材/カシ類	1071	83	30		両端欠	
2615	1071	木材 削材(角材状) 木材/カシ類	1011	40	28		一端欠	
						各面削り面で構成。一部は削り面か。		

計測値は m/m

表10 遺構1070・1071出土小製品観察表

遺物 番号	遺物番号	出土位置 遺物特記	遺物種別 材質	長さ 側/各 基高/厚 計測値備考				遺存〔量・状態〕
				長さ	側/各	基高/厚	計測値備考 整形・調査	
2517	1071		木材 削材/みかん削材	1013	58	26		部分欠
			木材/カシ類	一端に削り面、他端は潰れ状。表面の一部に削り面。				
2520	1071		木材 削材/みかん削材	946	73	24		上部欠
			木材/カシ類					
2541	1071		木材 削材/みかん削材	913	49	30		両端欠
			木材/カシ類	断面：三角形、偏平				
4325	1071		木材 削材/みかん削材	1008	71	25		両端欠
			木材/カシ類					
遺構1071 (3) [図61]								
2510	1071		木材 削材/みかん削材	936	49	18		上部欠
			木材/カシ類					
2514	1071		木材	899	75	29		両端欠
			木材/カシ類					
2519	1071		木材 削材/みかん削材	608	76	42		半ば欠
			木材/カシ類					
254	1071		木材 削材/みかん削材	752	87	18		部分欠。両端造存か。
			木材/カシ類					
2543	1071		木材 削材〔角材状〕	641	55	35		両端欠
			木材/カシ類	断面：四角形				
2546	1071		木材 削材/みかん削材	420	56	25		両端欠
			木材/カシ類					
4324	1071		木材 削材/みかん削材	807	81	22		両端欠
			木材/カシ類	断面：三角形、偏平				
4327	1071		木材 削材〔板材〕	587	81	27		両端欠
			木材/カシ類/板目材	みかん削り材の表皮部を板目方向に削り取り。				
9703	1071		木材 削材〔角材状〕	510	41	25		一端欠
			木材/カシ類					
遺構1071 (4) [図62]								
2702	1071		木器制作残滓 削片	58	26	8		半ば欠(縦に割れる)
			木材/					
9704	1071		加工材 切断面のある棒	170	43	35	断面横円形。先端部のみ取上げ	
			木材					
			木材/広葉樹/芯持ち材	単面の切断面で斜断				
9705	1071		木器 切断材〔棒状〕	315	29	25	断面横円形。先端部の裏面欠	
			木材/広葉樹/芯持ち材	端部取上げ				
9706	1071		木器 横樋	75	76	31	横樋部は折れかた。裏表の一部を欠く	
			木材/広葉樹/芯持ち材	頭部端は、削り面で整形。				
				柄は、削り出す。				
包含層 5層・6層 [図63]								
307	G26-9642 5層下	木器 蓋		132	8		ほぼ完存/全体に木目が浮く	
			木材/スギ/柾目材	薄い板材の周縁を荒い削り面で不正な円形状に整形。 下面は、削り面のままのこす。				
308	G26-9642 5層下 位	木器 棚尻		162	31		棚尻部/片側、両端部は麻 鉢	
			木材/広葉樹か/芯持ち材	長軸方向の細目の削り面により、全体を整形。 (丸人)				
				端面) 粗い削り面か(腐蝕して詳細不明)。				
				断面) 円形状。				

表11 遺構1071、包含層5・6層出土木製品観察表

計測値は mm

遺物番号	遺物番号	出土位置	遺物種別 材質	長さ	幅/径	基高/厚	計測値備考 整形・調整	遺存〔第1状態〕
423	G26-9442	5層下底	木器 糸巻部材	107	25	9穿孔:径7	ほぼ完存/遺存良	
			木材/ヒノキか/板目材				板材の片面を削り面のまま残し、側面を削り両端に突起を作成。両端部(上)下面を広く面取りし断面不整な円形状と成す。中央部(切り込みの両側)を削り込んで切り欠く。回転穿孔1箇所。	
2144	G26-0613	5b層	木器 【切欠きのある組合せ部材】	200	48	23	ほぼ完存/遺存良	
			木材/スギ/板目材				長方形厚板材の中央部を横断方向に切り欠き、その部分に穿孔。切欠き端により両側を切り込み、その間を欠き取り。穿孔)回転鋸により、横断方向に2箇所(径3mm)	
7568	G26-8644	5層下	木器 銛り板か	49	15	8	半ばを欠く/遺存良	
			木材/樹種不明(広葉樹)/板目材か				無長い板材の端部を丸く整形、中央部に穿孔(2孔が残る)。やや曲面状となる上面側は横部を面取りし、下面是平坦なまま残すことから、下面を丁目に削めつけるような形となる。	
7572	G26-9444	5層下 部	木器製作残滓 削片〔板状〕	68	18	4	遺存良	
			木材/ヒノキか					
305	G26-9635	6層か	木器 横柾	142	80	55	頭部を欠く。腐蝕が進行し、極軟、亀裂大。	
			木材/広葉樹/芯持ち材				頭部端面は平滑。体部は荒れて観察不能	
306	G26-9635	6層か	木器 鍔〔二又鍔〕	347	24	17	片側1/3、頭部を欠く。	
			木材/カシ類				側縁)直立する広い削り面で、部分的に面取り。刃部)内側を両端から斜めに削り整形。五角形状の断面となる。刃部先端部)裏面側のみ磨滅して、平滑となり断面格円形で尖端を成す。	
包含層 11層 [図64]								
2081	G26-9642	11層	木器 鋸〔平鋸〕	317	69	11	刃部、半ばを欠く/腐蝕跡著で全体形状をかろうじて留める。	
			木材/カシ類か				下半部の両側邊が刃部のように薄いのは、腐蝕によるものか、本来の形状であるのか、判断が難しい。鋸とすると、刃部間隔が異様に狭いことも疑問。	
							腐蝕のため形状のみ判別可。柄孔より外方の部位か。	
2267	G26-8752	11層	木器 扉〔把手〕	79	33	36	把手部のみの破片/器表は荒れ、木目が浮く	
			木材/スギか/板目材				把手部のみが、本体から分離したものとみえる。木材から断面台形状に削り出し、鋸り部はくり抜いて、断面半円形状となる。	
2297	G26-9551	11層	木器 堅杵〔小形〕	288	61	42	径は槌部(断面楕円形)、握り部断面は、不整円形(径28)	
			木材/広葉樹(黒色緻密な組織)/芯入り材				長軸方向の幅広の削り面で整形。握り部)細かな輪状の工具痕が残る。両端面)綴い球面状で平滑。	
2328	G20-9622	11層	木器 横柾	380	62	柄部径:29	ほぼ完存/遺存良	
			木材/広葉樹(緻密な組織)/芯入り材				器表は、全体に平滑。柄部)かすかに長軸方向の幅広の削り面が残される。研磨あるいは使用によるものか、底部は鈍い。柄尻を明瞭に作り出す。頭部)平滑な平坦面。	

計測値は n/a

表12 包含層5層-6層-11層出土木製品観察表

遺物 番号	遺物番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	高さ/厚	計測値備考	遺存（量・状態）
2356	G26-8742	11層	木器〔箇状の木製品〕	326	42	26	断面：橢円形（基部側を欠く部）	
			木材/広葉樹（黒褐色密）/芯立り材	体部：断面橢円形に整形。器表は全体に平滑。				
				先端部：長軸方向の幅広の削り面により、稜線をもった箇状に整形。端部の先端付近には磨擦面。				
3422	G26-80	11層	木器 木織	80	10	7		両端部を僅かに欠く/乾燥収縮/著しく変形
			木材/不明おそらくイスノキ/木取り不	著しく変形して、縦部不明、全面研磨を行う。				
			木取り	先端部 円錐状に削りだす。				
				基部 一段削く茎を削りだす。				
7569	G26-9632	11層	木器製作残滓 削片	157	135	35		
			木材/樹種不明	対抗する方向に削れ面。				
				島状のたかまりを削りとったものか。				
7580	G26-9545	11層	木器製作残滓 切断材	127	45	39		1側面を欠く/腐蝕進行
			木材/カシ類か/芯立り材	両端は削り面、側面は削れ面で、片面は炭化。				
包含層 12層(1) [図65]								
2282	G26-8556	12層	木器 容器〔高台皿〕	117	28	19		底部網片
			木材/樹種不明/紙目材模	高台との関係から、平面形は橢円形か長方形と復原できる。				
			木取り	底部は高台（ペタ底）				
				外外面赤色顔料を塗布。				
2372	G26-0613	12層	木器 四角形穿孔のある、板状部材	259	91	11		両端部を欠く/全体に腐蝕観察
				薄い板の長側辺に沿う位置に穿孔（長方形孔）。穿孔は橢円方向で浅い角度でノミを入れ、削り取ったものとみえる。整形痕は判別できない。長側辺の縁部はやや丸み。				
2661	G26-9541	12層	木器 紋	164	60	8		刃部/2の破片/腐蝕が進行し器表剥落
			木材/カシ類/紙目材	円錐部の2辺が突起を保っているが、その全幅にわたり、薄く整形されて全体に薄い。				
3203	G26-9935	12層	木器 槽	197	174	82		半ばを欠く。破断面は炭化/腐蝕が進行し、亀裂
			木材の芯部が、底部に位置	木材/樹種不明/芯持ち材	半裁した木材の木膚側からえぐり込み、断面逆台形状の凹部作出。			
			する。		内面の木口面に平刃の工具痕。			
7560	G26-94(44)	12層	木器 切欠きがある板状品	163	26	8		一端を欠く/遺存良
			木材/針葉樹（スギか）/紙	板状の両側から切り込み、三角形の切欠きを設ける。片側の半ばは向側から斜めにそいだようになり、刃線状を呈す。				
			目材	表裏面に素材の割り面をそのまま残す。				
7570	G26-0613	12層	木器 包丁形の木器	165	39	9		刃部破片、先端を欠く/腐蝕をよく進行し、かろうじて原形を判断できる
			木材/カシ類か/紙目材	又鋸破片と考えていたが、上半部の左右邊とも面取りが行われ、刃部は下半部の片側のみ。				
包含層 12層(2) [図66]								
397	G26-9535	12層	木器 遊具か〔藤柄〕	223	11		頭部：長さ145×頭部と柄の一部、細分化幅25×厚さ13	
			木材/広葉樹/枝を残した樹幹	石斧柄と同様な整形を行なうが、取り付け角が鈍角で、小形。				
				台部枠当部）表裏とも中央付近に段を残し、断面形は菱形状。台部先端部側は被熱炭化。				
2281	G26-8555	12層	木器製作残滓 切断材	80	60	38		完存
			木材/広葉樹	端面：切断面、削り面から成る／上面・側面：削れ面、削り面／下面：削れ面				

判定値は n/a

表13 包含層11層・12層出土木製品観察表

遺物番号	出土位置	遺物種別	長さ	幅/径	器高/厚	計測値備考	遺存〔量・状態〕	
							彫刻/装飾	
2648	G26-9631 12層	木器 [木分類]	445	77	71	板状部では24	ほぼ完存/遺存良	
2部分の形状の組合せは鳥 木材/樹種不明/木目材か 長軸に沿う細い削り面で棒状に整形する部分と、中央の瘤状の膨らみを境に両面から削り、底面をもつ板状に整形する部分から成る。 目的とする形状が判然としない。								
3286	G26-9721 12層	木材 板(炭化)	130	116	24		腐蝕進行、軟質	
		木材/(広葉樹)				上面平滑、下面粗面、一端に切断痕。周縁部炭化。		
7661	G26-7621 12層	木器 板状の木器	115	35	10		半ばを欠く/腐蝕、軟化	
		木材/針葉樹(マツカ) / 桜				板材の上下面は割り面のまま残し、両端・側邊を削って多角形状に整形する。		
		木目 板				中央の位置に方形の孔を刻む。裏面の凹部は穿孔時の削れか。		
7671	G26-0613 12層	木材 穴孔のある板状木	282	37	7		片側を欠く/遺存良、軟質	
		木材/針葉樹(スギガ) / 枝				板材の片側から突き回し(突き鮒)、対応する裏面から切り込みを入れて穿孔する。片側の側面に沿って2ヵ所。		
		木目				側邊はやや丸みをもつ部分がある。		
						端部の一方は説化して丸みをもち、他端は一部に削り面が残る。		
7581	G26-9615 12層	木器 尖端をもつ木器	192	23	16	長さは断片の合計	断片化/腐蝕し、器表剥落	
		角材状か。断片化。					頭著	
		木材/広葉樹(カシ類か)				3片に分離して接合しないが、各断面四辺形に整形する。細長い形狀を想定できる。		
						先端部と考えるのは、側縁の片側を削り、角のみ状の丸づけをしたように見えるもの。		
						器表は黒化し、古色を帯びている。		
7582	G26-9615 12層	木器製作残滓 削片	154	101	46			
		木材/広葉樹				一端に削り面、他は荒い削れ面。		
9714	G26-9721 12層	木器製作残滓 削片	79	83	11		端部欠/遺存良	
		木材/広葉樹				上面: 平滑な複数削り面。炭化部も削っているように観察される。		

包含層 13層 【図67】

1835	G26-0121 13層	木器 箕	298	17	14		先端欠/腐蝕し器表剥落	
木材/広葉樹(黒色緻密な組織) 先端部) 断面円形に近く整形。面で構成されないことから研磨等の可能性あり。								
						中央部) 平坦面で構成されて、断面円形の矩形。		
基部) 片面を削ぎ落としたようになり、範状を呈す。断面低い角形状。								
3350	G-54 13層	木器 捺 [刃部部材]	225	13	10		ほぼ完形/乾燥収縮し著しく変形。「S」字状に屈曲	
		木材/広葉樹(緻密な組織)/芯去り材				変形が顕著で觀察に難がある。		
						明瞭な調整は確認できないが、先端部・基部とも複数の剥離面で構成され、箋状を呈しているように見える。		
						中央部は、やや太くなり両側面には平坦面があり、断面は鶏冠の矩形。		
3378	G26-9114 13層	木器 鍔 [平鍔]	270	175	15		下平鍔を欠く/腐蝕著しく進行	
		木材/カシ類/柾目材				周縁の整形は遺存状態不良のため観察できない。		
						頭部も含め、周縁部を薄く整形しているものか。		
						筋孔) 鍔前面と思われる方向へやや聞く方孔の孔。体部に直交する着柄が推測される。		
3405	G26-9222 13層	木器 板状の加工品	25	17	6		両端を欠く/片面は乾燥により器表丸	
		木材/針葉樹(おそらくヒノキ)/柾目材				長軸方向の広い削り面により、中央に縦をもつ、偏平。		
7678	G26-0312 13層	木器 板状の部材	107	30	5		側縁は削り面で整形	
		蓋のような使用法が想定できる。				片面に炭化部が斑状となる部分がある。		
		木材/針葉樹(おそらくヒノキ)/柾目材						

計測値は mm

表14 包含層12層・13層出土木製品観察表

遺物 番号	遺物番号 遺物特記	出土位置 遺物種別 材質	長さ 幅/径 高さ/深	計測値備考 整形・調整	遺存【量・状態】	
					量	状態
遺構1012-1089-1113-1122 【図68】						
1012 284		木器 板状の木製品〔段 状の切欠きがある板状の 部材〕	76 27 12		両端を欠く細片／腐食進 行し、極軟。やや収縮変 形。	
		木材/広葉樹か/木取り不 規格	枝状に細長い厚板材の片面を一段欠いて薄く整形。 明			
4167	1089	木器 空孔のある板状部 材	519 291 24		1/3を欠く/腐食がやや進 行、軟化	
転用材						
		木材/広葉樹か(不明)/桿 日材	板状木材の長側辺側の両側に各2ヵ所穿孔。工具は平刃の刃物で 不整な櫛円形の孔。両面から抉り取るよう加工。 短側辺一方では、内側から広い面取り、他面は直立する削り面。 現状では、横断面の形状は弧状となるが、変形によるものか整形 作出了したものか、判然としない。裏面に刈り出す変化がみられない ことからすると前者。			
1113 3484		木器 横	186 91 63	内法 長さ147幅 71高さ50	一端を欠く/斜めに削れた ように変形(上圧によるも のか)	
		木材/不明。針葉樹/芯持 ち材			木材を削り面のまま残す。 木材芯は箱底面の位置にある。	
3552	1122	木器 建築材	210 40		端部のみの資料/遺存良	
		木材/広葉樹/芯持ち材			端部は削り面、端面付近に逆台形状の切欠き(大きめ削り取る、 平刃の刃痕)。 裏面、端部を除き、受け面。目的的なものか否かは判らない。	
矢板列 1093-1095 【図69】						
3357 1093		矢板	165 33 15		先端部/全体に乾燥収縮	
		木材/カシ類/剖材			板材の一端を削断し、尖端を作出。	
3361 1093		矢板	218 70 19		先端部	
		木材/カシ類/剖材(板状)			板材の両側縁を削り、尖端を作出。	
3362 1093		矢板	164 54 13		先端部	
		木材/カシ類/剖材(板材)			板材の両側縁を削り、尖端を作出。	
3363 1093		矢板	167 24 9		頭部欠/乾燥、各部に亀裂 状	
		木材/カシ類/剖材(剖片)			剖材の先端部を利用する。	
3364 1093		矢板	192 52 12		先端部/全体に乾燥、亀裂	
		木材/カシ類/剖材(板材)			板材の両側縁を削り尖端を作出。	
3365 1093		矢板	181 27 8		頭部欠/器表剥落	
		木材/カシ類/剖材(剖 片)			剖材断片の尖頭状となった部分を利用したものか。	
3366 1093		矢板	349 63 18		頭部欠	
		木材/カシ類/剖材(剖 片)			板材の両側縁を斜めに削ぎ落し、上面も削って尖端を作出。	
3367 1093		矢板	332 73 15		頭部欠	
		木材/カシ類/剖材			板材の両側縁を斜めに削ぎ落し、尖端を作出。	
3368 1093		矢板	153 43 12		先端部。頭部は乾燥によ る収縮。	
		木材/カシ類/剖材(板 材)			板材の両側縁を削り、尖端を作出。	
3369 1093		矢板	114 37 13		先端部	
		木材/カシ類/剖材(板 材)			剖材の尖端部を利用したものか。	

表15 遺構出土木製品観察表(遺構1012-1089-1113-1122、矢板列1093-1095)

遺物 番号	遺物番号 番号	出土位置 遺物特記	遺物種別 材質	長さ	幅/径	高さ/深	計測値備考		遺存〔量・状態〕
							整形・調整	整形・調整	
4051	1096		矢板	142	38	7			先端部/腐蝕進行(剥離)
			木材/カシ類か/削材(板)	板材の片側縁を削り、尖端を作出。					
4052	1095		矢板	132	32	6			先端部/腐蝕進行(剥離)
			木材/カシ類か/削材(板)	板材の片側縁を削り、尖端を作出。					
4053	1095		矢板	194	68	12			先端部/腐蝕進行(剥離)
			木材/カシ類か/削材(板)	板材の両側縁を削り、尖端を作出。					
4054	1095		矢板	160	42	8			先端部/腐蝕進行(剥離)
			木材/カシ類か/削材(板)	板材の両側縁を削り、尖端を作出。					

計測値/mm

表16 矢板列1082出土木製品観察表

通商番号	通物種別	通商番号	厚	闊	高	通商番号	通物種別	通商番号	厚	闊	高	通商番号	通物種別	通商番号	厚	闊	高	
284	切欠部材	1012	68	15		2409	欠板	1061	53	8		3273	欠板	1070	57	10		
305	横継	包含層 6層	63	12		2410	薄	427	18層	39	3	3274	欠板	1070	57	10		
306	継〔又継〕	包含層 6層	63	12		2439	継〔又継〕	427	22層	42	4	3275	板材	1070	57	10		
307	縫	包含層 5層	63	11		2460	継	427	18層	39	3	3278	丸ぶり	427	18層	36	1	
308	柄尻	包含層 5層	63	11		2471	縫	427	16層	39	3	3286	板(炭化)	包含層 12層	66	14		
297	遊具	包含層 12層	66	13		2474	有孔板状木器	427	22層	50	8	3350	縫	包含層 13層	67	14		
423	条巻部材	包含層 5層	63	12		2505	継〔平継〕	427	22層	42	4	3357	矢板	1093	69	15		
937	器具部材	427	18層	39	3	2507		1062		55	9	3361	矢板	1093	69	15		
1342	足付檜	427	19層	41	4	2508	板状〔削材〕	1062		55	9	3362	矢板	1093	69	15		
1345	横継	427	18層	38	2	2509	板状〔削材〕	1062		55	9	3363	矢板	1093	69	15		
1346	柄(彌側未完成)	427	22層	48	7	2510	削材	1071		61	11	3364	矢板	1093	69	15		
1347	縫	427	18層	34	1	2511	削材	1071		60	10	3365	矢板	1093	69	15		
1349	継	427	18層	35	1	2512	削材	1071		60	10	3366	矢板	1093	69	15		
1353	堅井	427	18層	38	2	2513	削材	1071		60	10	3367	矢板	1093	69	15		
1378	堅井	427	19層	41	4	2514	削材	1071		61	11	3368	矢板	1093	69	15		
1383	堅井	427	18層	38	2	2515	削材	1071		60	10	3369	矢板	1093	69	15		
1384	縫	427	18層	39	3	2516	削材	1071		59	10	3378	継〔平継〕	包含層 13層	67	14		
1385	盛状木器	427	18層	40	4	2517	削材	1071		60	11	3405	板状木器	包含層 13層	67	14		
1393	縫(実継)	427	18層	37	1	2518	削材	1071		59	10	3408	軒杆	1044	55	9		
1394	縫	427	22層	47	6	2519	削材	1071		61	11	3422	木継	包含層 11層	64	13		
1417	えぶり	427	18層	36	1	2520	削材	1071		60	11	3484	檜	1113	68	15		
1457	継	427	22層	47	6	2540	削材	1071		61	11	3552	建築材	1122	68	15		
1470	杓子	427	22層	50	6	2541	削材	1071		60	11	4051	矢板	1095	69	16		
1478	杓か	427	22層	46	5	2542	削材	1071		59	10	4052	矢板	1095	69	16		
1503	横継	427	18層	38	2	2543	削材	1071		61	11	4053	矢板	1095	69	16		
1505	木継	427	22層	50	7	2544	削材	1071		59	10	4054	矢板	1095	69	16		
1507	横継	427	18層	38	2	2545	削材	1071		59	10	4167	穿孔板状部材	1089	68	15		
1508	横継か	427	18層	38	2	2546	削材	1071		61	11	4324	削材	1071	61	11		
1511	継〔偏刀〕	427	18層	37	1	2580	継〔又継〕	427	18層	34	1	4325	削材	1071	60	11		
1572	縫	427	18層	39	3	2596	継〔半継〕	427	22層	44	5	4326	削材	1071	59	10		
1579	柄(詰柄)	427	18層	37	1	2599	継〔半継〕	427	22層	44	5	4327	削材	1071	61	11		
1587	継〔平継〕	427	18層	35	1	2602	神(彌側)	427	22層	45	5	7561	板状木器	包含層 12層	65	13		
1604	斧柄(彌側)	427	22層	46	5	2637	縫	427	18層	40	4	7561	板状木器	包含層 12層	66	14		
1609	斧柄(彌側)	427	22層	47	6	2638	把手形材	427	18層	39	3	7567	木継〔グダ〕	427	18層	39	3	
1617	脚輪孔部材	427	22層	50	8	2640	継〔直継〕	427	22層	41	4	7568	角部材	包含層 5層	63	12		
1618	柄か	427	22層	47	6	2647	削材	1071		59	10	7569	削片	包含層 11層	64	13		
1649	柄(彌側)	427	22層	45	5	2648	〔未分類〕	包含層 12層		66	14	7570	包上形木器	包含層 12層	65	13		
1684	容器(彌)	427	22層	49	6	2661	継	包含層 12層		65	13	7571	穿孔板状部材	包含層 12層	66	14		
1691	弓	427	22層	47	6	2700	杵(蟹井)	427	24層	47	6	7572	削片	包含層 5層	63	12		
1740	穿孔〔蓋〕	427	22層	49	7	2702	削片	1071		62	11	7578	板状削材	包含層 13層	67	14		
1744	平継	427	22層	43	5	2955	横継	427	18層	38	2	7580	切削材	包含層 11層	64	13		
1756	継〔又継〕	427	22層	42	4	2966	横継	427	22層	47	7	7581	尖頭器	包含層 12層	66	14		
1778	平継	427	22層	43	5	3046	柄か(彌側)	427	22層	46	6	7582	削片	包含層 12層	66	14		
1833	縫	包含層 13層	67	14	3133	柄(柄)	427	22層	47	7	7588	建築部材	427	22層	50	8		
1871	横継	1054	51	8	3203	縫	包含層 12層		65	13	7590	柄	427	22層	46	5		
1873	縫	1054	51	8	3216	杓子	427	22層	49	7	7591	堅状	427	22層	47	7		
1874	櫛状木器	1054	51	8	3241	矢板	1070		57	9	7592	横継	427	18層	38	2		
1875	横継(棒材)	1054	51	8	3242	矢板	1070		57	9	7605	継〔平継〕	427	22層	42	1		
1893	継〔又継〕	427	18層	34	1	3243	矢板	1070		57	9	7610	継〔又継〕	427	18層	35	1	
2081	継〔平継〕	包含層 11層	64	12	3244	矢板	1070		57	9	7613	板(丸木軸)	427	18層	40	4		
2144	組合せ部材	包含層 5b層	63	12	3245	矢板	1070		57	9	9441	縫	427	18層	39	3		
2267	扉(把手)	包含層 11層	64	12	3246	矢板	1070		57	9	9444	伴状の加工品	427	18層	40	4		
2281	切断材	包含層 12層	66	13	3247	矢板	1070		57	9	9702	削材	1071		59	10		
2282	穿孔(清古軸)	包含層 12層	65	13	3253	矢板	1070		57	9	9703	削材	1071		61	11		
2297	堅井(小形)	包含層 11層	64	12	3254	矢板	1070		57	9	9704	桿材	1071		62	11		
2322	横継	包含層 11層	64	12	3255	矢板	1070		57	9	9705	桿材	1071		62	11		
2326	堅井	427	18層	38	2	3256	矢板	1070		57	9	9706	横継	1071		62	11	
2330	堅井	427	18層	38	2	3259	矢板	1070		57	9	9709	縫	427	22層	47	7	
2356	端状木製品	包含層 11層	64	13	3260	矢板	1070		57	9	9710	奥山柄(彌側)	1054	51	8			
2372	穿孔板状部材	包含層 12層	65	13	3261	矢板	1070		57	10	9714	削片	包含層 12層	66	14			
2380	縫	427	18層	39	3	3262	矢板	1070		57	10							
2408	削材	1061	53	8	3272	矢板	1070		57	10								

III まとめ

今回報告は、今宿五郎江遺跡第10調査のうち、溝427遺物出土状況及び、谷部出土資料を含む木製品についておこなった。

溝427は、西の第9次調査区から続くもので、今宿五郎江遺跡の立地する台地の周縁に沿って掘削されている。

溝427埋積層について

溝427を埋める堆積層は、大きく5分して調査を行った。上位2層は、溝427の埋没が進行し、浅い壅み状となった環境下に生成、堆積したものと思われる。25層とする層は、地山土の移動の結果と見え、間に灰層を挟んでいることから人為的に形成された可能性が高い。土器にも完形のものが含まれる。16層は、泥炭質の粘土層で、10次地点では浅くなつた溝427を埋めるように生成している。その上部は削剥され、最終的には5b層・5層が覆う。5b層の堆積は16層の生成からかなり後のこととなるので、13層、12層といった5b層の堆積以前の層の堆積に際して現況に近い状態となつてゐる可能性はある。西隣する第9次調査地点では、溝427の埋没後谷部を含め広く泥炭質粘土層が広がつており、その性状は第10次地点の16層と同様のものである。このことから、もともと16層は溝427の壅みを埋めるだけでなく、第9次地点と同様広く谷部にも広がつてゐたことも考えられる。

下位の18層以下について、18層は砂層が主体となる層であり、16層と同じように考えると、第9次地点の溝427を埋積する上位層である21層に代表される砂層につながるものである可能性が高い。同様に最下位の22層は、第9次地点の29層(東半区)から続くものと考えられる。

以上、今宿五郎江第10次地点では、第9次地点と同様、溝427掘削後、静水環境での堆積が進行していたが、ある時点から流水の影響を受けるようになりさらに埋積が進行し、最終段階では谷全体に生成した層下に没したものと想定できる。

遺物の出土状況について、各層を通じて南端部の35-10区、中央部の26-05区を中心とした位置での出土量が最も多い。35-10区は、第9次地点から一段下るような位置にあり、溝底の勾配が緩く変化する位置となり、26-05区は北側の溝底がやや高くなっていることも影響しているものか。また、26-05区と付近では西岸からの流れ込んだような土器の出土状況が見られる。

出土木製品について

今回報告では、木製品のみを報告した。約1100点の資料中、溝427出土資料はその1/3程を占めるそれ以外の多くは、谷部に設けられた杭列、矢板列といった遺構を構成する部材としての杭、矢板である。

溝427中18層から22層にまたがつて出土した。木製品は約370点を数える。そのうち木器とするものは82点、残りの大半は割材とするもので、他に少數の矢板が含まれる。利用する木材の大半はカシ材とするものである。その大半は割材とするものである。樹種もカシ材とみるものがほとんどである。器種の構成に顕著な偏りは認められない。敢えていえば農具の特に鍬とするものの数が多い。併し腐蝕の進行で形状について不明瞭なものも多い。次いで箒が顕著である。海岸部であるという立地によるものか。

報告書抄録

いまじゅくご ろうえ

今宿五郎江 10

—今宿五郎江遺跡第10次調査報告(2)—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1110集

2011年3月18日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 株式会社ハザマ印刷

福岡市南区那の川1丁目20番23号